

株式会社 筑波銀行
2026年3月期 決算説明会

2026年6月12日（金）



Tsukuba Bank

筑波銀行

東証プライム
証券コード：8338
頭取 生田 雅彦

－目次－

I. 筑波銀行の概要	・・・ 2
II. 2026年3月期決算概要	・・・ 9
III. 2027年3月期業績予想	・・・ 13
IV. 「筑波銀行 未来戦略デザイン」と「第6次中期経営計画」	・・・ 15
V. 「第6次中期経営計画」 1期目の振り返りと2期目の主な取り組み	・・・ 19
VI. 企業価値向上に向けて	・・・ 30
VII. サステナビリティの取り組み	・・・ 39
VIII. 最後に	・・・ 44
Appendix	

I 筑波銀行の概要



筑波銀行

(東証プライム 8338)



筑波銀行つくば本部ビル（つくば市）



筑波山（つくば市）



霞ヶ浦（かすみがうら市）

プロフィール（2026年3月31日現在）

名称	株式会社筑波銀行
創立年月日	1952年9月15日
本店所在地	茨城県土浦市中央二丁目11番7号
本部所在地	茨城県つくば市竹園一丁目7番
資本金	488億円
店舗数	148店舗（茨城県内135，県外12，インターネット1）
拠点数	68拠点*（茨城県内62，県外6，インターネット除く）
従業員数	1,207人
預金残高	2兆5,547億円
貸出金残高	2兆2,071億円
自己資本比率	【単体】 9.51%

* 拠点数は、ブランチ・イン・ブランチ方式による店舗統合後の営業箇所数

■ 恵まれたマーケット環境

■ 茨城県の経済データ

 人口 ^{※1} (2024年10月1日)	2,806千人	11位
 1人当たり県民所得 ^{※1} (2022年度)	3,481千円	3位
 県内総生産 ^{※2} (2022年度)	14兆5,856億円	11位
 実質経済成長率 ^{※2} (2021年度)	6.6%	4位
 農業産出額 ^{※1} (2023年)	4,536億円	3位
 製造品出荷額等 ^{※1} (2022年)	14兆8,596億円	7位

※1 茨城県HP「茨城の豆知識」(2025年6月現在) ※2 茨城県県民経済計算(2021年度・2022年度)

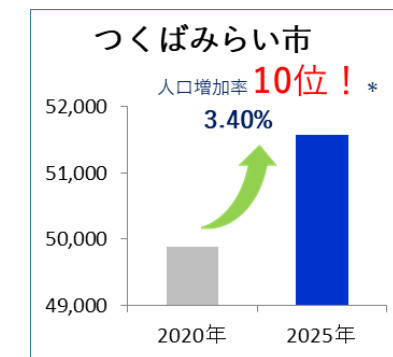
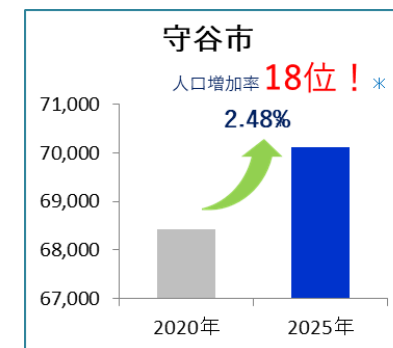
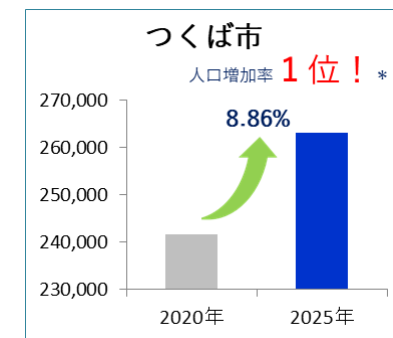
■ 全国トップクラスの工場立地エリア

経済産業省

	工場立地件数	工場立地面積	県外企業の工場立地件数
2022年	60件 (2位)	116ha (1位)	40件 (1位)
2023年	75件 (1位)	165ha (2位)	47件 (1位)
2024年	73件 (1位)	117ha (3位)	46件 (1位)

■ 増加が著しい県南地域の人口

※ 各年10月1日現在 全国792市中



店舗網と外部ネットワーク

■ 充実した店舗網と幅広い外部ネットワーク

茨城県を中心に **国内68拠点** の広域ネットワークを形成

※ 2026年3月31日現在



■ 店舗ネットワーク

茨城県	62拠点	栃木県	2拠点
千葉県	2拠点	東京都	2拠点

■ 個人チャネル専門店舗

すまいるプラザ	茨城県内9拠点
ダイレクトセンター	茨城県内1拠点

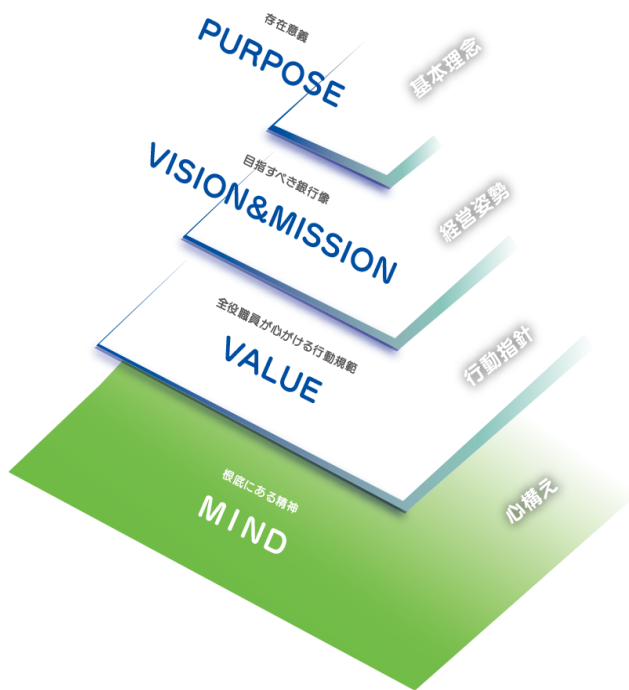
■ 預り資産販売専門店舗

筑波銀行SBIマネープラザ	茨城県内1拠点
---------------	---------

■ 主な業務提携

- じゅうだん会
- SBIグループとの戦略的業務提携
- 北関東3地銀の広域連携協定
- フィンクロス・パートナーシップ

■ 筑波銀行グループ経営理念体系図



PURPOSE 存在意義

地域のために 未来のために

VISION&MISSION 目指すべき銀行像



VALUE 全役職員が心がける行動規範

「小回り」と「質」による“とことん支援”

MIND 根底にある精神

『筑波PRIDE』

【PURPOSE策定の経緯】

- ・ 地元経済への支援をより一層強化するため誕生から15周年の節目となる2025年2月に長期ビジョン「未来戦略デザイン」を策定しました。
- ・ 同デザインの実現に向けて全役職員の心をひとつにまとめるため、当行の存在意義を最も端的に表すフレーズとして「～地域のために 未来のために～」をPURPOSEに定義しました。

■ 目指すビジョン

役職員の熱意（筑波PRIDE）と当行の強みである「小回り」と「質」によるお客さま支援を実践し、地域の持続的発展に貢献することで地域のファースト・コール・バンク（最初に相談したい銀行）であり続けること

II 2026年3月期 決算概要

2026年3月期 決算概要（単体）

（単位：億円）

	2026年3月期		2025年3月期
		前期比	
① 業務粗利益	278	△ 2	280
資金利益	288	24	264
役務取引等利益	45	4	40
その他業務利益	△ 56	△ 32	△ 24
うち国債等債券損	△ 59	△ 38	△ 20
経費（△）	238	6	232
うち人件費（△）	125	6	118
うち物件費（△）	96	△ 0	96
② コア業務純益	99	30	69
コア業務純益（除く投資信託解約損益）	97	30	67
実質業務純益	40	△ 8	48
一般貸倒引当金繰入額（△） A	△ 7	11	△ 19
業務純益	47	△ 20	67
臨時損益	25	49	△ 23
うち株式等関係損益	33	22	11
うち不良債権処理額（△） B	17	△ 28	45
③ 経常利益	73	29	44
特別損益	△ 4	△ 3	△ 0
税引前当期純利益	68	25	43
法人税等合計	3	0	2
④ 当期純利益	65	25	40
与信関係費用（△） A + B	9	△ 16	26
有価証券関係損益	△ 26	△ 16	△ 9

① 業務粗利益
278億円（前期比△2億円）

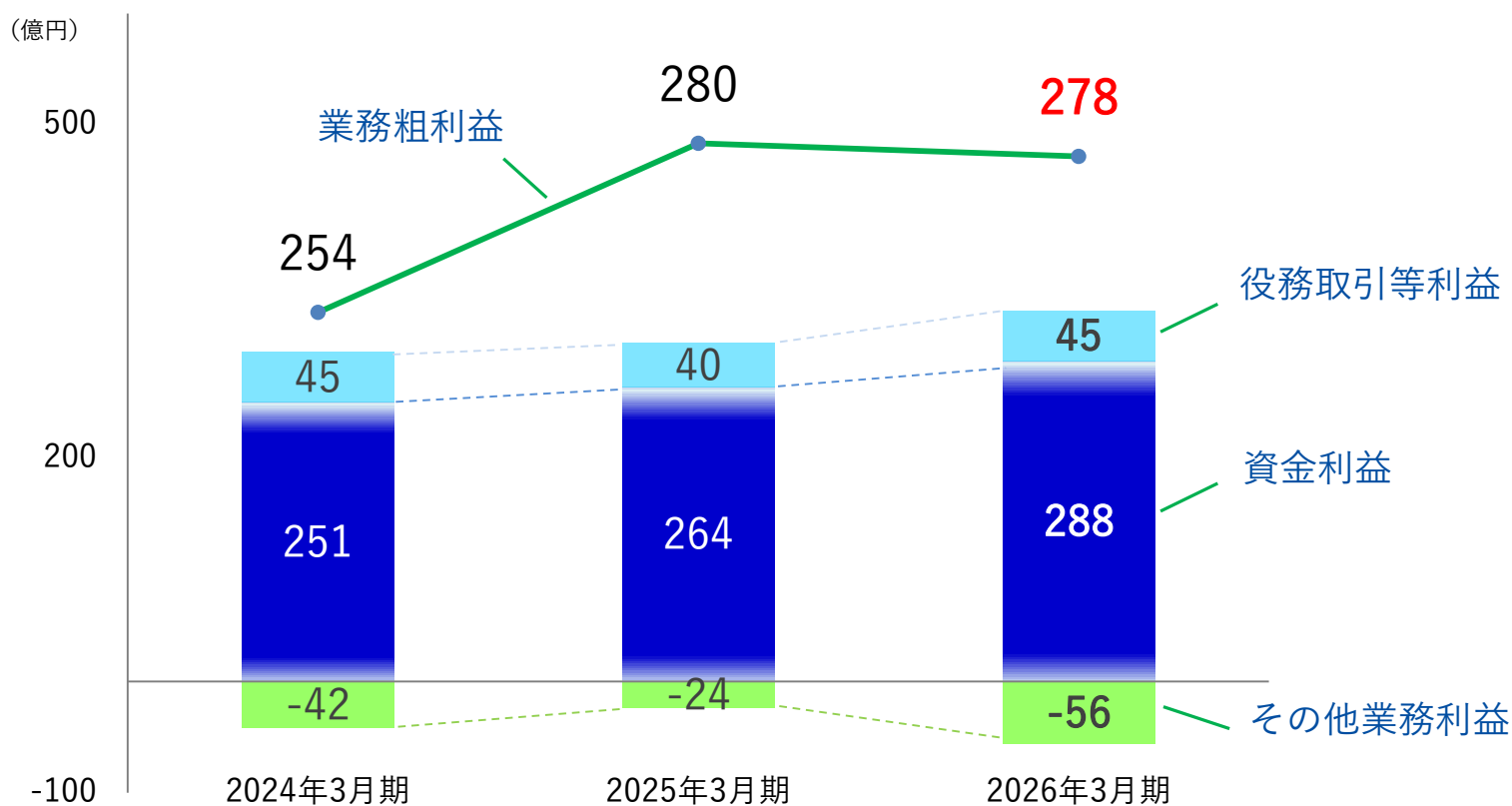
② コア業務純益（過去最高）
99億円（前期比+30億円）

③ 経常利益
73億円（前期比+29億円）

④ 当期純利益（過去最高）
65億円（前期比+25億円）

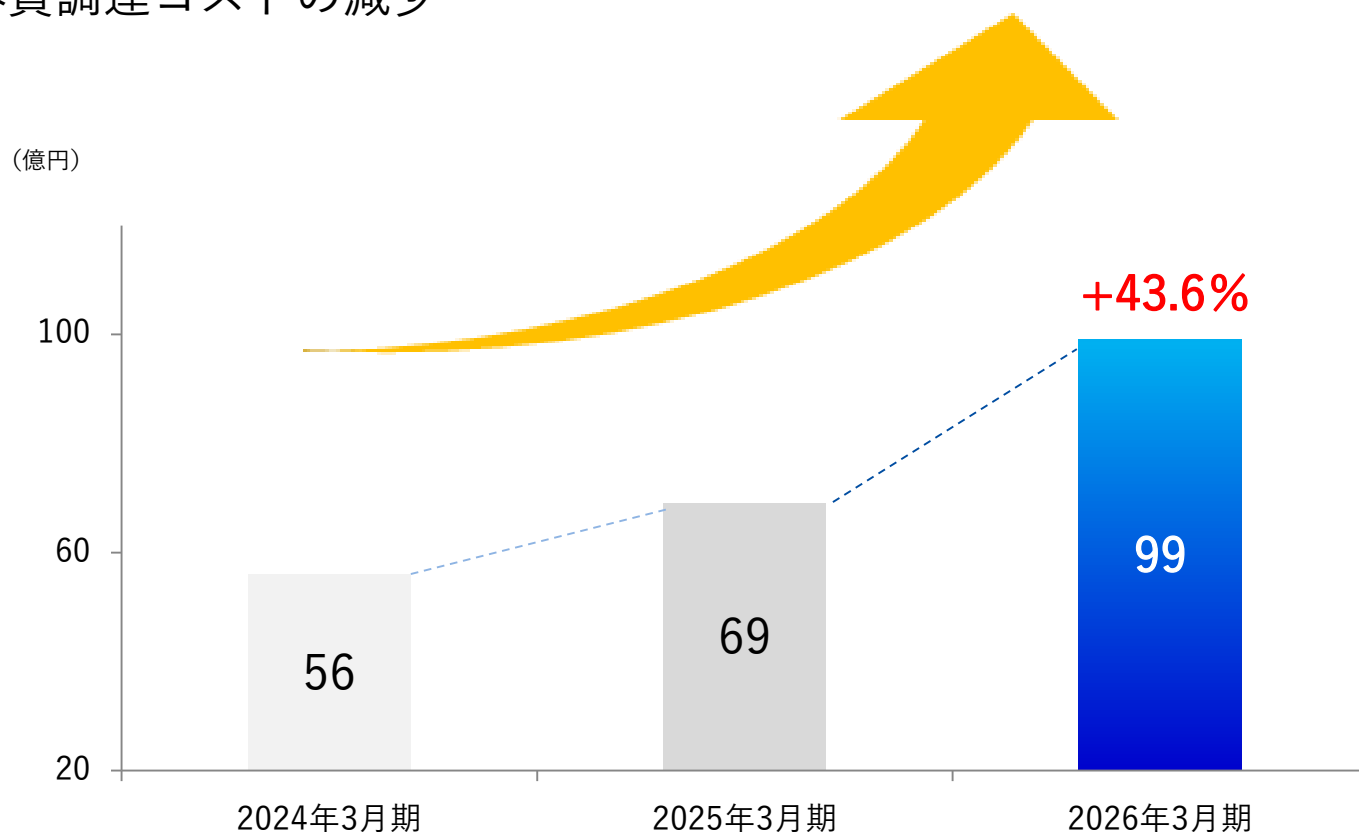
① 業務粗利益

- 資金利益および役務取引等利益は順調に増加
- その他業務利益の減少
 - 有価証券評価損の削減に向けた低利の国内債券のロスカット実施等による国債等債券損益の減少



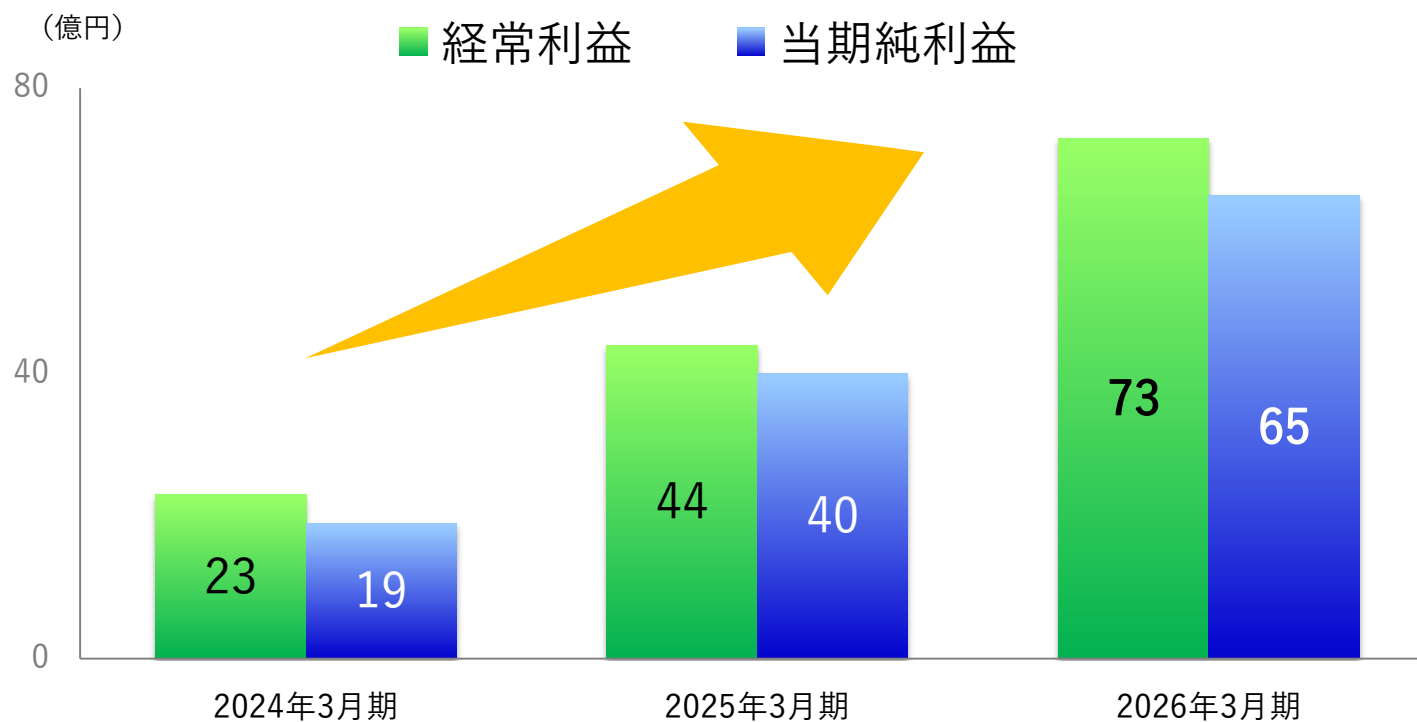
② コア業務純益 ※「コア業務純益」… 業務粗利益－経費－国債等債券損益

- 2010年の銀行誕生以降の最高益を達成
- 貸出金利息を中心とした資金利益の増加
- 役務取引等利益の堅調な推移
- 外貨調達コストの減少

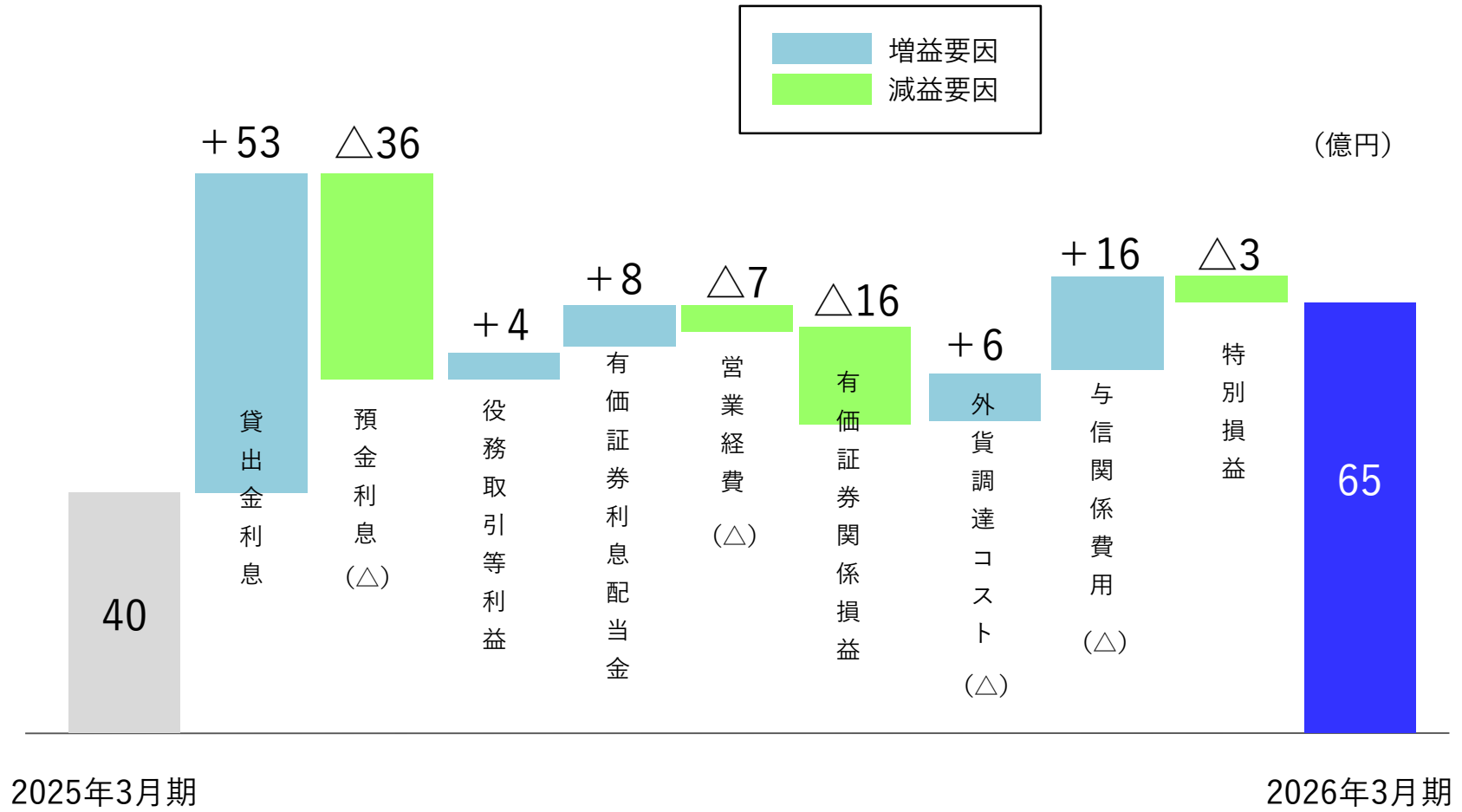


③ 経常利益 ④ 当期純利益

- 資金利益の増加等による「コア業務純益」の増加
- 与信関係費用の減少
 - 個別貸倒引当金繰入額が大幅に減少



【当期純利益の主な増減要因】



Ⅲ 2027年3月期 業績予想

2027年3月期 業績予想

【単体】

単位:億円

	2027年3月期 業績予想	2026年3月期 実績	前期比
業務粗利益	321	278	43
資金利益	307	288	18
役務取引等利益	35	45	△ 9
その他業務利益(国債等債券損益を除く)	2	3	△ 0
経費 (△)	253	238	15
コア業務純益	93	99	△ 6
国債等債券損益 ③	△ 25	△ 59	34
実質業務純益	68	40	28
一般貸倒引当金繰入額 (△) ①	1	△ 7	9
業務純益	66	47	19
臨時損益	9	25	△ 16
うち株式等関係損益 ④	15	33	△ 18
うち不良債権処理額 (△) ②	20	17	3
経常利益	76	73	3
当期純利益	66	65	0
与信関係費用 ①+②	22	9	12
有価証券関係損益 ③+④	△ 10	△ 26	16
本業利益 (貸出金利息 - 預金利息 + 役務取引等利益) - 経費	31	41	△ 10
ROE (純利益ベース)	6.42%	6.97%	△ 0.55%

【連結】

単位:億円

	2027年3月期 業績予想	2026年3月期 実績	前期比
経常利益	77	74	2
親会社株主に帰属する当期純利益	67	66	0

<ポイント>

● 単体

経常利益 76億円

当期純利益 66億円

● 連結

経常利益 77億円

親会社株主に帰属する当期純利益 67億円

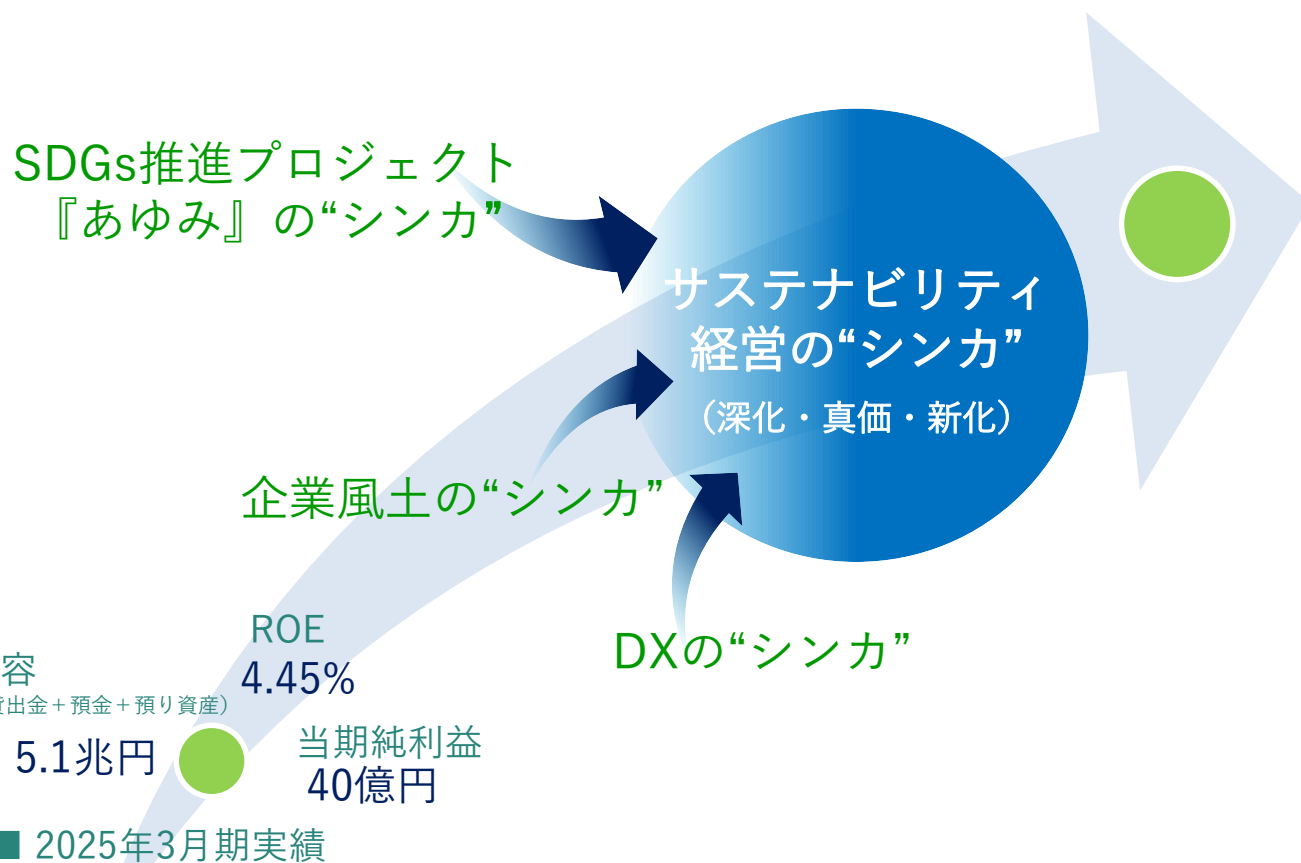
- ◆ 主に以下の要因により貸出金利息の増加を見込む
 - ・ 中小企業貸出および住宅ローンを中心とした貸出金残高の増加
 - ・ 貸出金利回りの改善
- ◆ 与信関係費用は取り巻く諸情勢を踏まえ保守的に見込む
- ◆ 有価証券ポートフォリオの改善を継続
- ◆ 人的資本や成長分野への積極的な投資を継続

※業績予想については、本資料の発表日現在において入手可能な情報等を前提に策定しており、今後、経済情勢及び金融環境が大きく変化する場合には、与信関係費用の増加等により当行グループの業績見通しに変更となる可能性があります。

IV 「筑波銀行 未来戦略デザイン」と「第6次中期経営計画」

■ 「筑波銀行 未来戦略デザイン」の概要

- ・ 銀行誕生15周年の節目となる2025年2月に策定
- ・ 3年ごとのフェーズに区切った中期経営計画（第6次～第8次）を積み上げていくことで、企業価値の向上とマルチステークホルダーにとってウェルビーイングな企業に前進することを目指す。



■ 2034年3月期計画

当期純利益	100億円以上
ROE	8%以上
業容※	6兆円以上

※業容：貸出金+預金+預り資産

■ 株主還元方針 (公的資金返済後)

市場動向・業績見通し等を勘案し、内部留保の充実も考慮しつつ

総還元性向40%程度を目指します

■ 「第6次中期経営計画」の概要

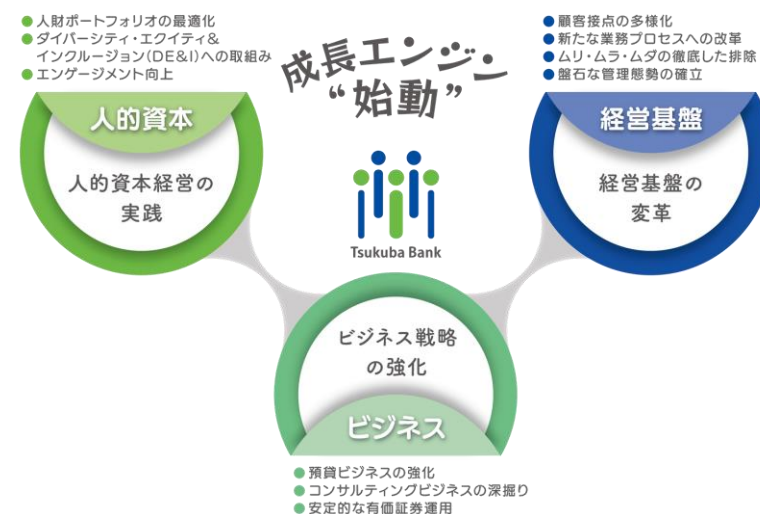
計画名称 **Rising Innovation 2028**
 ～ ツクバ ワクワク、はじまる ～

計画期間 **2025年4月～2028年3月（3年間）**

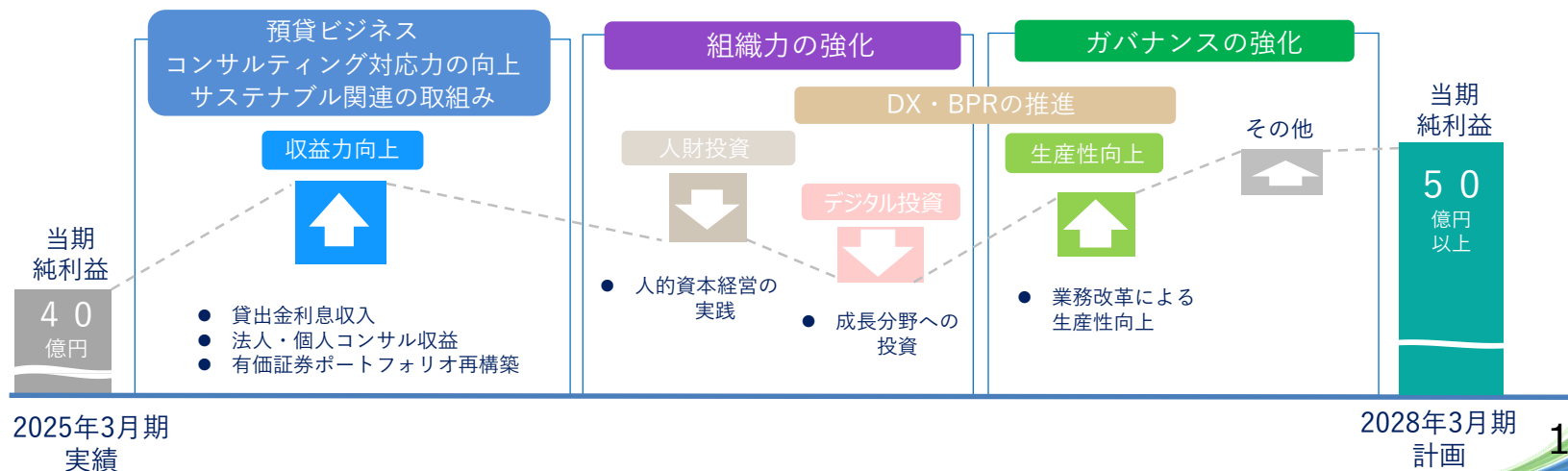
コンセプト 「筑波銀行 未来戦略デザイン」の実現に向けた第1フェーズと位置づけ、地域・お客さまに「当行ならではの価値」を提供し、ともに発展する持続的なビジネスモデルの構築を目指す

目指す財務指標	当期純利益	ROE	コアOHR	自己資本比率
2028年3月期 (計画)	50億円 以上	5% 以上	70% 台	9% 以上

基本骨子

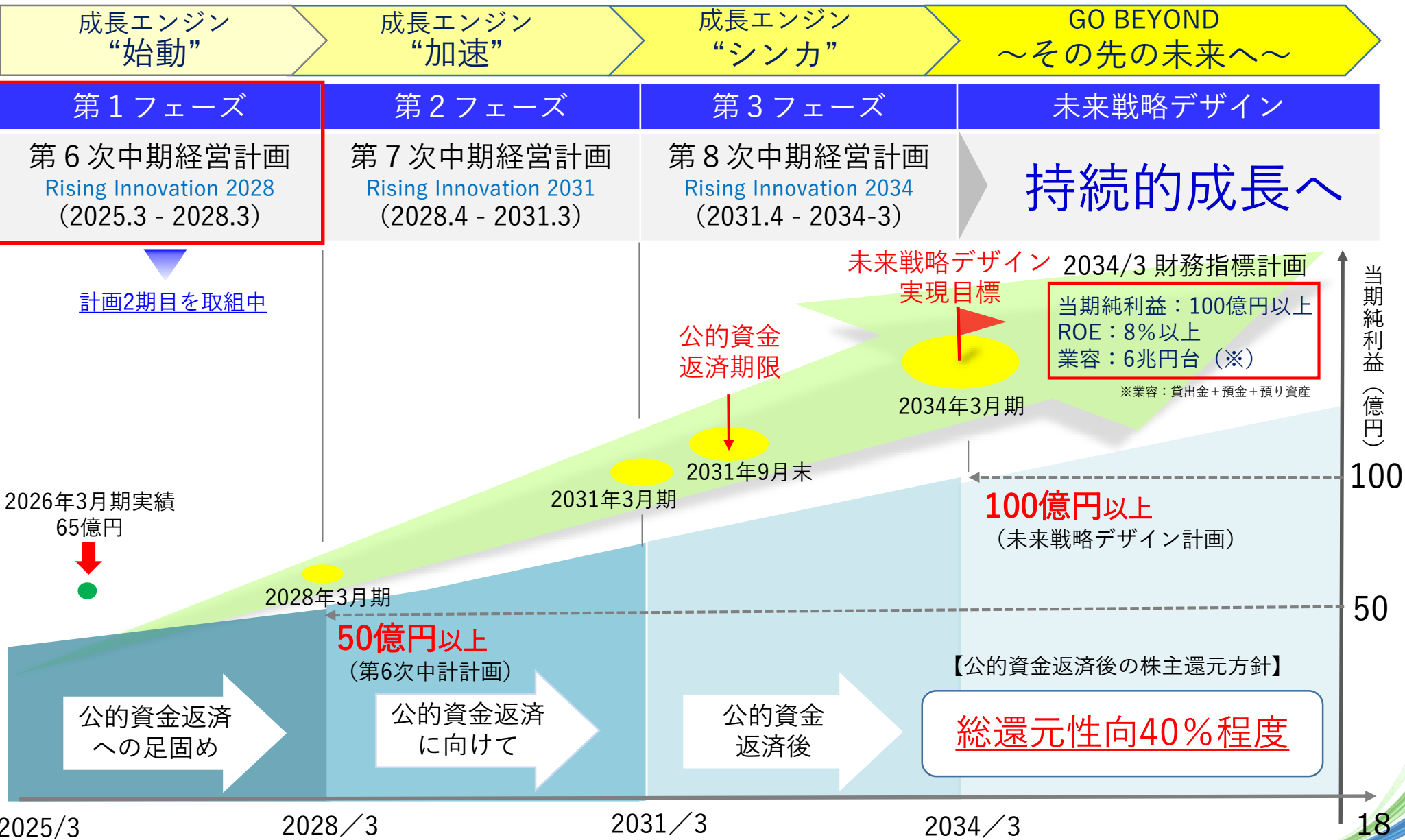


2028年3月期
当期純利益
計画イメージ



「筑波銀行 未来戦略デザイン」 実現に向けて

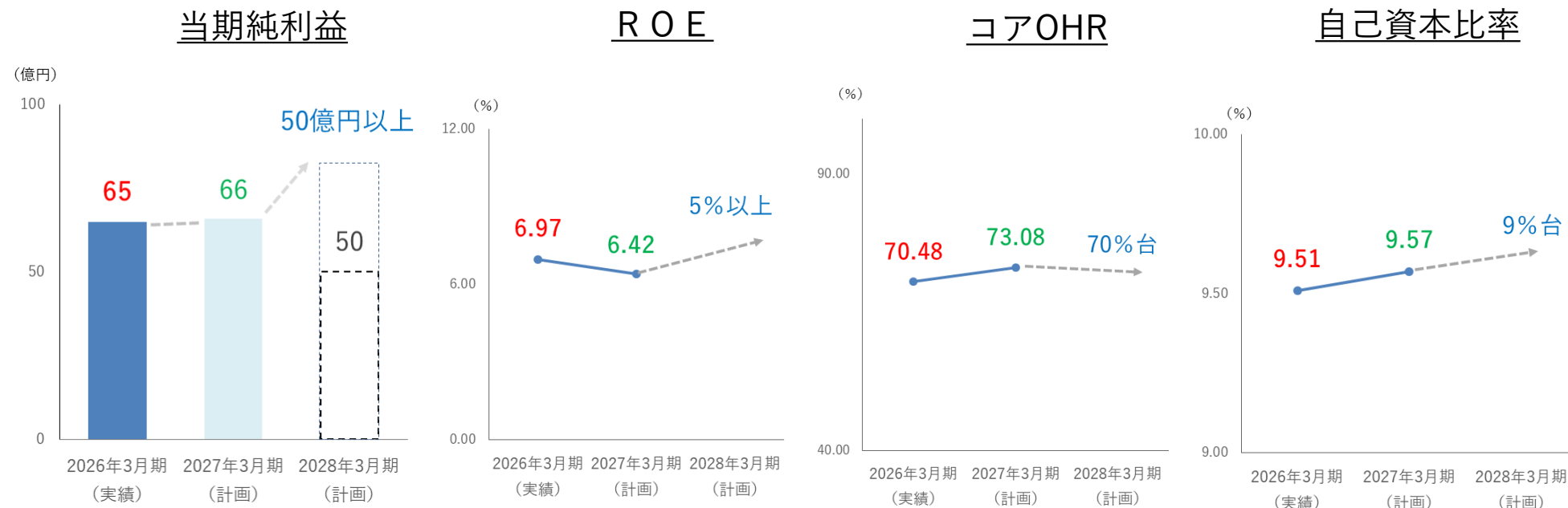
「筑波銀行 未来戦略デザイン」 実現に向けたロードマップ



V 「第6次中期経営計画」1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

「第6次中期経営計画」 1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

■ 「第6次中期経営計画」 1期目の振り返り



- 「第6次中期経営計画」の主要KPIについては概ね計画通り進捗
- 2026年3月期決算において「コア業務純益」ならびに「当期純利益」は過去ピークの実績を更新
- 「コアOHR」は経費が計画を下回ったほか、着実な収益力の改善により前期比△6.47%と大幅改善
- 「自己資本比率」は当期純利益の上振れに伴う自己資本の額の増加などにより前期比+0.14%の9.51%へ上昇
- 一方、法人預金及び個人預金については計画を下回り2期目以降の取り組みが課題

「第6次中期経営計画」 1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

■ 「第6次中期経営計画」 1期目の振り返り

「第6次中期経営計画」における主要KPIの進捗状況（2026年3月末）

項目	主要KPI	単位	2025年3月末 (実績)	2026年3月末 (計画)	2026年3月末 (実績)	結果 (※)	2028年3月末 (計画)
人的資本	人財ポートフォリオの最適化						
	1. スキル評価におけるアドバンスクラス以上の行員の割合	%	44.0	47.0	50.5	○	55.0
	ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの取り組み						
	2. 女性管理職比率（女性活躍推進法ベース）	%	8.0	10.0	9.6	△	15.0
	エンゲージメント向上						
	3. エンゲージメントスコア	点	—	—	3.9	—	スコア向上
経営基盤	4. 顧客満足度アンケート（法人）調査結果	点	7.9	8.0	7.9	△	8.2
	5. 顧客満足度アンケート（個人）調査結果	点	8.5	8.5	8.6	○	8.7
	顧客接点の多様化						
	6. ダイレクトセンター・コールセンターの活用による申込件数（3年間累計）	件	700	763	907	○	2,620
	7. ダイレクトセンターによる申込受付件数（3年間累計）	件	5,292	5,460	6,438	○	16,920
	8. デジタルユーザー数	件	224,261	248,600	236,741	△	302,300
新たな業務プロセスへの改革／ムリ・ムラ・ムダの徹底した排除							
9. BPRによる時間の創出（3年間累計）	時間	—	53,000	128,550	○	200,000	
ビジネス	預貸ビジネス						
	10. 法人預金残高	億円	5,721	5,849	5,745	△	6,382
	11. 個人預金残高	億円	18,713	18,974	18,775	△	19,507
	12. 事業性貸出金利息額（3年間累計）	億円	115	138	139	○	453
	13. 消費性貸出金利息額（3年間累計）	億円	87	102	106	○	333
	コンサルティングビジネスの深掘り						
14. 預り資産関連手数料（3年間累計）	億円	32.38	32.56	37.40	○	99.42	
15. 法人フィー獲得金額（3年間累計）	億円	17.41	17.50	21.49	○	52.50	

※ 結果 ⇒ ○ … 達成率100%以上 △ … 達成率70%以上100%未満 × … 達成率70%未満

「第6次中期経営計画」1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

■ 人的資本（人財ポートフォリオの最適化）

中計1期目の振り返り

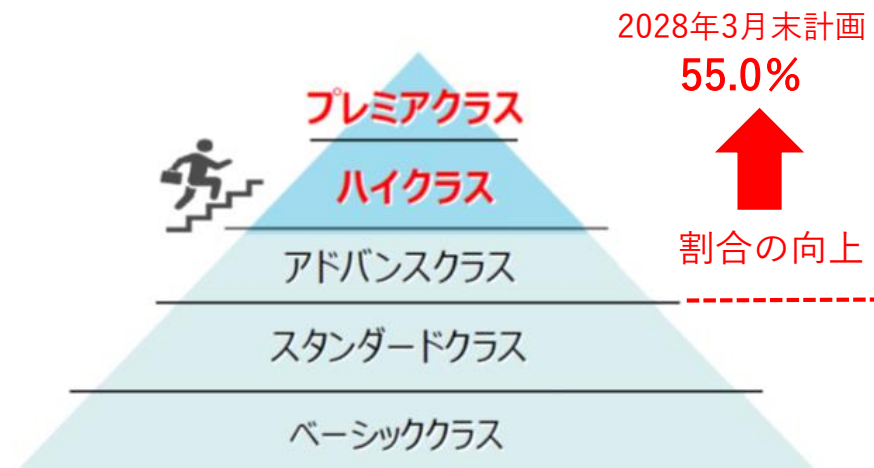
- 中計1期目のKPI計画を達成
- スキル評価の結果に基づく専門講座の実施
- 法人・個人ソリューション業務のスキル向上を目的とした各種トレーニーの実施
- 自己啓発チャレンジシートの活用及び高度資格取得に向けた支援 等

中計2期目の主な取り組み

- スキル評価の全体的な底上げを図るため、低スコア業務に関する指名式講座を実施
- 本部トレーニー招聘による実践力の向上
- FP1級・中小企業診断士の取得に向けた休日セミナー及びWEBセミナーの開催
- 行員一人あたりの人的投資額の増加
(研修参加者や研修日数の増加等)

KPIの進捗状況

<スキル評価におけるアドバンスクラス以上の行員の割合>



「第6次中期経営計画」1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

■ 人的資本（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンへの取り組み）

中計1期目の振り返り

- 中計1期目のKPI計画は僅かに未達
- ダイバーシティ推進プロジェクトチームによる女性活躍に向けた活動（7月・12月に会議開催）
- 階層別・目的別研修の積極的開催
 - ・キャリアデザイン研修、ロジカルシンキング研修
 - ・中堅リーダー養成講座、6年目、10年目研修 等

中計2期目の主な取り組み

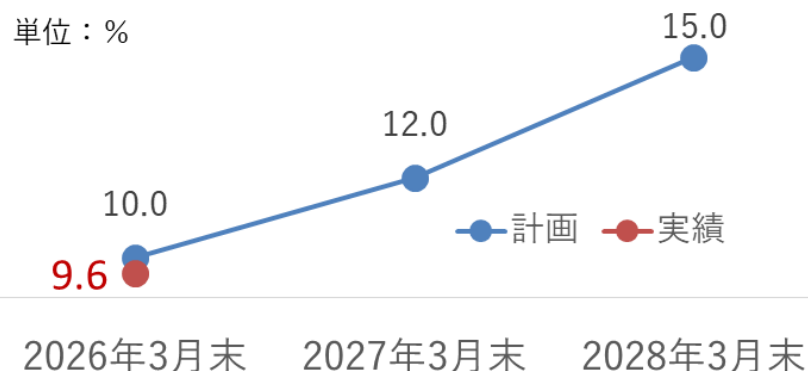
5つのウェルビーイング



- 女性役席用ロードマップに沿った計画的な育成を実施
- 各種研修の実施によるキャリアアップに向けた意識を醸成
- 営業店長および人事指導役による女性外訪担当者・女性管理職候補者の育成 など

KPIの進捗状況

< 女性管理職比率（女性活躍推進法ベース） >



ダイバーシティ推進PT会議

「第6次中期経営計画」1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

■ 人的資本（エンゲージメント向上）

中計1期目の振り返り

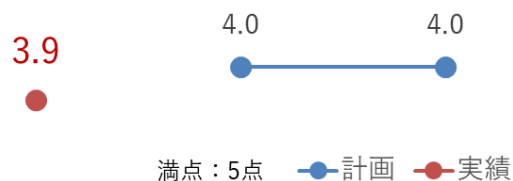
- 中計1期目のKPI計画は顧客満足度アンケート（法人）が僅かに未達成
- エンゲージメントスコアは5点満点中3.9点
- 積極的な若手行員の役席・管理職登用
- 各種制度の利用促進
（行内兼業・行内公募・キャリアチャレンジ 等）
- 顧客満足度の向上に向けた本業支援や顧客本位の業務運営の徹底

中計2期目の主な取り組み

- エンゲージメントサーベイ2回目を実施、エンゲージメントスコアの着実な改善（2027年度計画「4.0」の達成）
- 役員によるパーパス・各施策の説明（タウンホールミーティング）
- 行内報の電子化による双方向コミュニケーションの構築

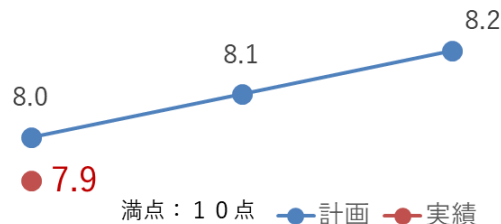
KPIの進捗状況

<エンゲージメントスコア>



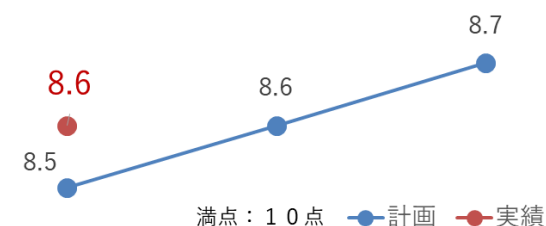
2026年3月末 2027年3月末 2028年3月末

<顧客満足度アンケート（法人）>



2026年3月末 2027年3月末 2028年3月末

<顧客満足度アンケート（個人）>



2026年3月末 2027年3月末 2028年3月末

「第6次中期経営計画」1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

■ 経営基盤（顧客接点の多様化）

中計1期目の振り返り

- DC・CCの活用による申込件数（法人S分野）
 - ・DM発送、AIリスト活用等により中計1期目のKPI計画達成 ※DC…ダイレクトセンター CC…コールセンター
- DCによる申込受付件数（個人S分野）
 - ・テレマリストの生成、架電件数および接触件数増加により中計1期目のKPI計画達成
- デジタルユーザー数
 - ・中計1期目のKPI計画は未達
 - ・未達の主な要因は法人IBおよび個人IB契約者数の未達

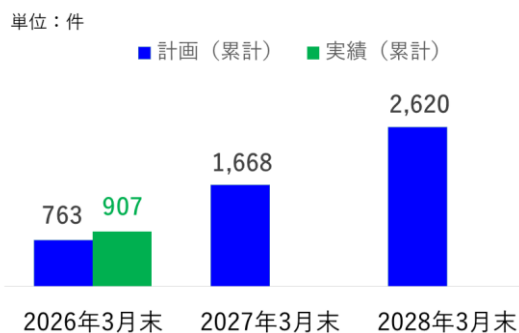
中計2期目の主な取り組み

- 個人向けスマートフォンアプリの刷新（2027年1月予定）
- 店舗施策は各エリアの人口動態やお客さまの利便性などを踏まえ慎重に検討（2026年3月末／68拠点）

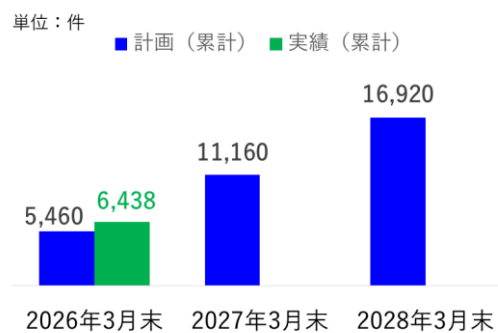


KPIの進捗状況

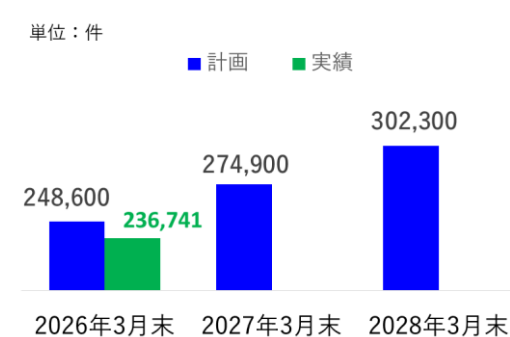
<DC・CCの活用による申込件数>



<DCによる申込受付件数>



<デジタルユーザー数>



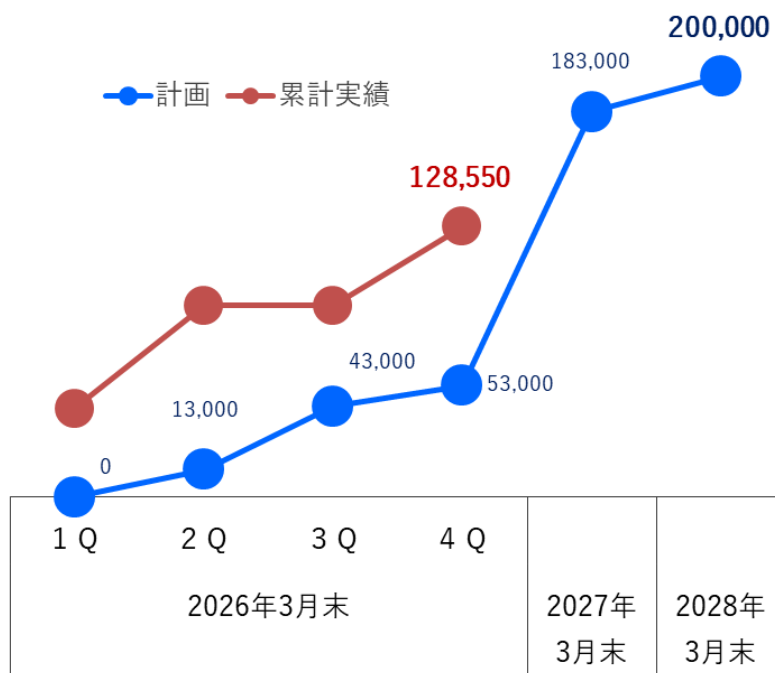
「第6次中期経営計画」 1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

■ 経営基盤（新たな業務プロセスへの改革／ムリ・ムラ・ムダの徹底した排除）

中計1期目の振り返り

- 年度計画53,000時間に対し実績128,550時間（1期目KPI計画に対する達成率242.5%）

BPRによる創出時間の推移



中計2期目の主な取り組み

- 2025年度に実施したBPR施策の効果検証と更なるBPR施策の積み上げを実施し、中計2期目の計画130,000時間（累計183,000時間）の達成を目指す
- BPR施策の「深化」
 - ・ 施策浸透に向けた継続的な情宣活動
 - ・ 営業店ヒアリングによる施策の実施
 - ・ 生成AIの活用
- 効果検証実施による「真価」
 - ・ 営業店ヒアリングおよびアンケートの実施
- 本部の働き方の「新化」
 - ・ 本部の働き方マニュアルの作成

「第6次中期経営計画」1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

■ ビジネス（預貸ビジネス①／法人預金残高・個人預金残高）

中計1期目の振り返り

【法人預金】

- 中計1期目のKPI計画に対して達成率98.2%
- 融資解消先の預金減少などが影響

【個人預金】

- 中計1期目のKPI計画に対して達成率98.9%
- 他行競合に加え、物価高に伴う家計の支出圧力が影響

中計2期目の主な取り組み

【法人預金】

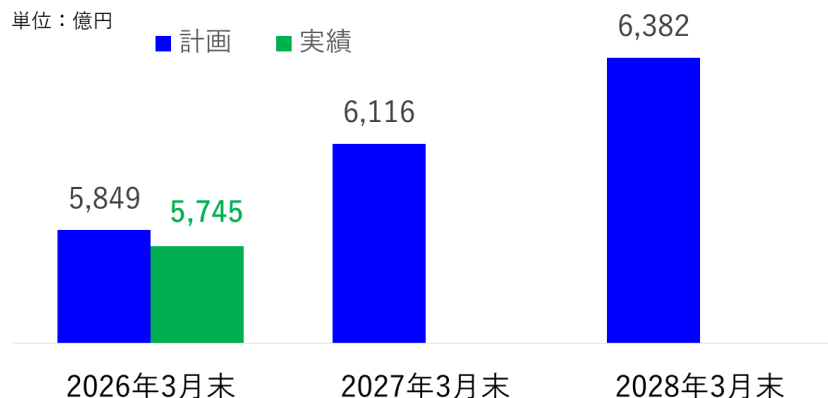
- 預金取引メイン化の推進
 - ・総合振込および給与振込の元請推進
 - ・融資シェアに応じた預金シェアの獲得

【個人預金】

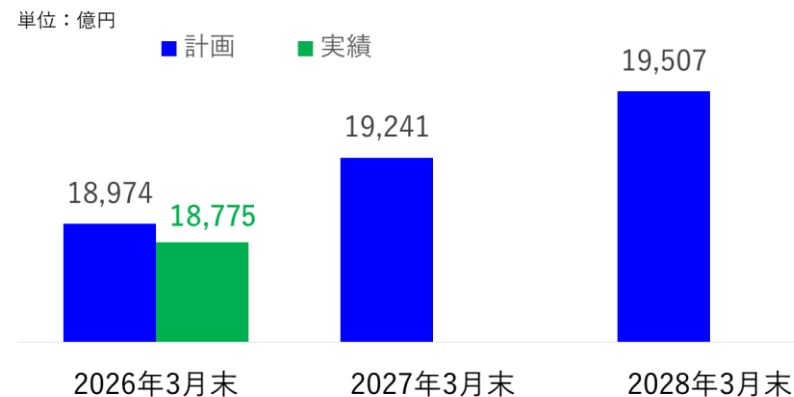
- 粘着性のある預金の推進
 - ・給与振込および年金振込口座の獲得
 - ・顧客向けキャンペーンの実施

KPIの進捗状況

<法人預金残高>



<個人預金残高>



「第6次中期経営計画」1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

■ ビジネス（預貸ビジネス②／事業性貸出金利息額・消費性貸出金利息額）

中計1期目の振り返り

- ▶ 事業性および消費性ともに貸出金利息額は中計1期目のKPI計画を達成
- ▶ 達成の要因（事業性）は以下のとおり
 - ・重要指標3項目（平残／利回り／残高増加額）すべての項目を達成
- ▶ 達成の要因（消費性）は以下のとおり
 - ・住宅ローン（残高／利回り／利息額）
 - ・無担保ローン（残高／カードローン残高／利息額）

中計2期目の主な取り組み

【事業性貸出金利息額】

「筑波PRIDE」をベースとした

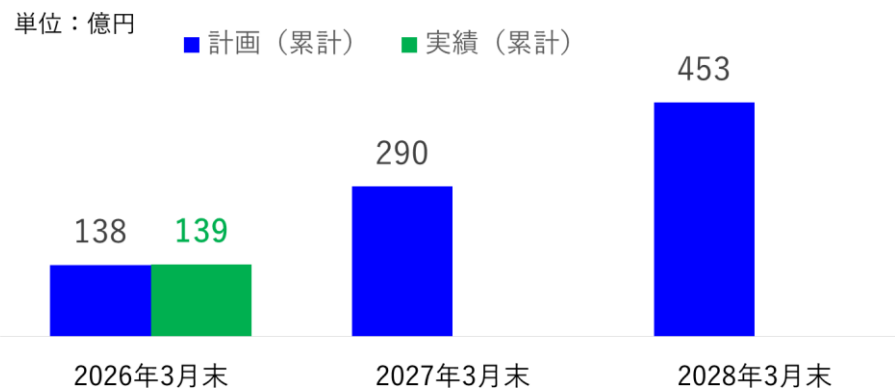
- ▶ 事業性評価に基づく対話の実施
- ▶ 「小回り」と「質」を最大限に活かした本業支援の積極展開

【消費性貸出金利息額】

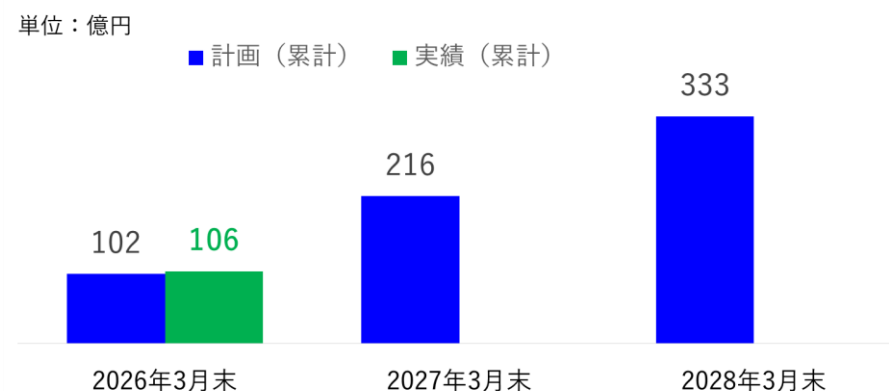
- ▶ 住宅ローンおよび無担保ローンの継続推進（好調性の維持）

KPIの進捗状況

< 事業性貸出金利息額 >



< 消費性貸出金利息額 >



「第6次中期経営計画」 1期目の振り返りと2期目の主な取り組み

■ ビジネス（コンサルティングビジネスの深掘り）

中計1期目の振り返り

【預り資産関連手数料】

- 中計1期目のKPI計画に対して実績114.9%
- NISA口座数およびNISA稼働口座数、投信積立振替額についても計画以上の実績

【法人フィー獲得金額】

- 中計1期目のKPI計画に対して実績122.8%
- 融資関連手数料及び事業承継・M&A手数料が計画以上の実績

中計2期目の主な取り組み

【預り資産関連手数料】

- 預り資産に関する3項目の推進（販売手数料・信託報酬・預り資産取引先数）
- NISA口座数および投信積立振替額の増加

【法人フィー獲得金額】

- 地元中小企業への“とことん”支援を継続
- つくばマルシェの開催（2026年6月予定）
- ビジネス交流商談会の開催（2026年10月予定）

KPIの進捗状況

<預り資産関連手数料>

単位：百万円

■ 計画（累計）

■ 実績（累計）



<法人フィー獲得金額>

単位：百万円

■ 計画（累計）

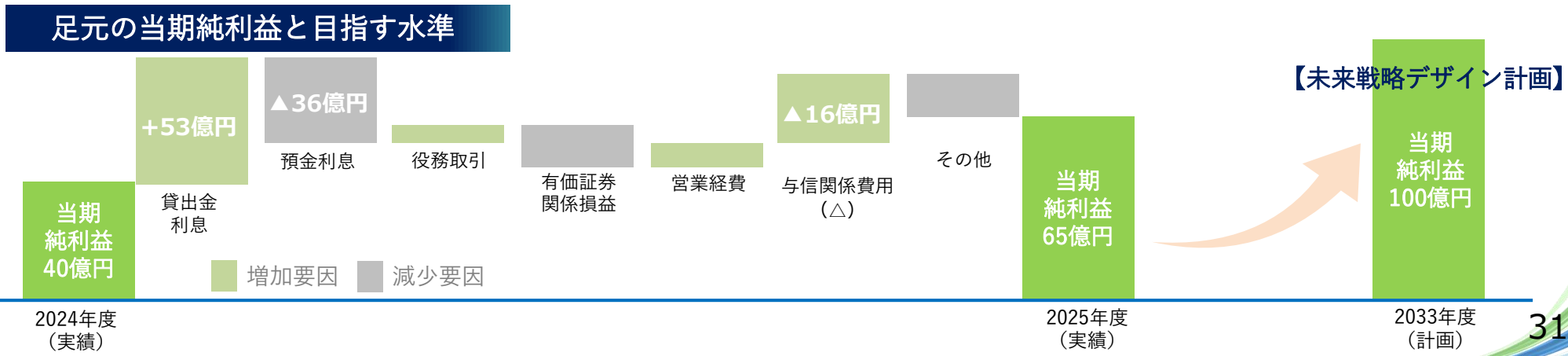
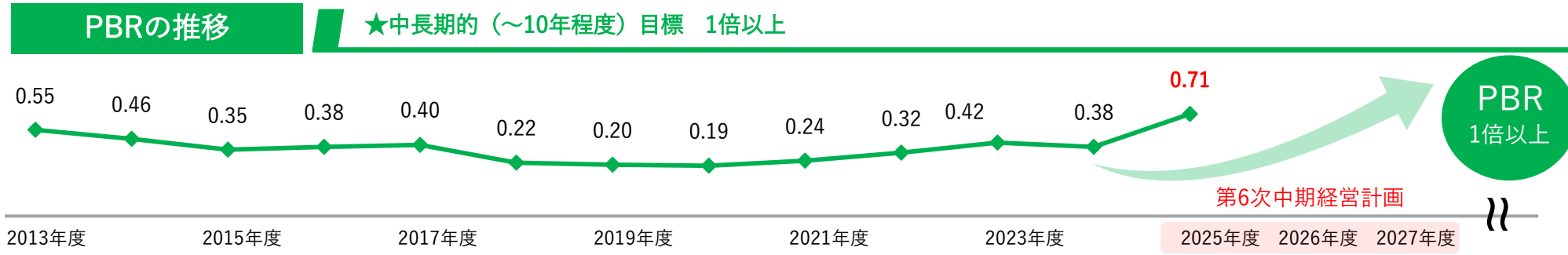
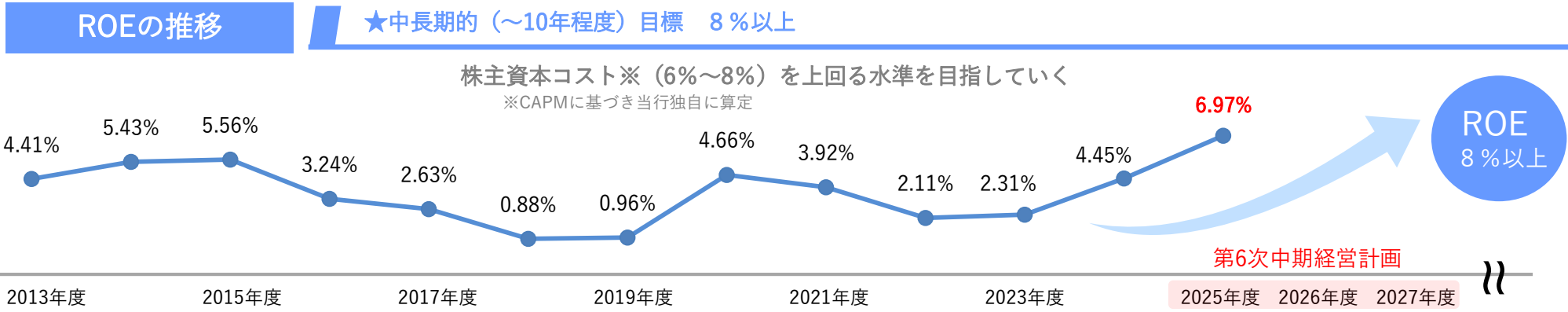
■ 実績（累計）



VI 企業価値向上に向けて

企業価値向上に向けて

➤ PBR・ROEは着実に改善。今後も第6次中計の着実な履行により企業価値の向上を図っていきます。



➤ PBR (=ROE×PER) を分解したロジックツリーに基づく取り組みは計画を上回り推移

PBR向上に向けたロジックツリー			(実績)			
			第6次中計 主要KPI等	2024年度 (参考実績)	2025年度 (中計初年度)	2027年度 (中計最終年度)
ROEの 向上	収益効率の向上 (RORA改善)	収益力強化 (トップライン の強化)	法人ソリューション			
			事業性貸出金利息額 (億円)	115	139	163
			法人フィー獲得金額 (百万円)	1,741	2,149	1,750
			個人ソリューション			
		消費性貸出金利息額 (億円)	87	106	117	
		預り資産関連手数料 (百万円)	3,238	3,740	3,371	
	コスト コントロール	店舗網の見直し (拠点数)	68	68	66	
		与信コスト (億円)	26	10	—	
	リスク・アセット コントロール	自己資本比率 (%)	9.37	9.51	9.0以上	
		RORA (%)	0.31	0.50	0.45以上	
財務レバレッジ コントロール	資本の 最適配分	人財投資の増加率 (2024年度比) (%)	-	16.5	25.0	
		DX投資額 (億円)	-	5.2	20.0	
	株主還元の 充実	総還元性向 (%)	公的資金返済後40%程度を目指します			

PERの
向上

株主資本コストの改善

株主・投資家との
エンゲージメント強化

期待成長率の向上

成長戦略の策定と実現
に向けた各種施策の展開

- 機関投資家向けIR (1回/年) 及び個人投資家向けIR (2回/年) の開催
- 2025年9月「TNFDフォーラム」への参画、同年10月「筑波銀行 ネイチャーポジティブ宣言」を表明

企業価値向上に向けて

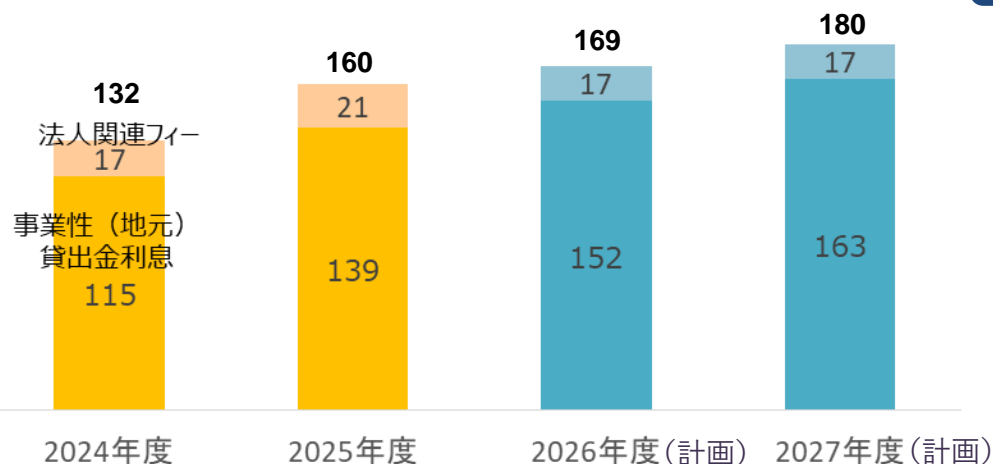
➤ 収益力強化の取り組み

● 法人ソリューション … 多様化するお客さまのニーズを汲み取り、適切なソリューションを提供

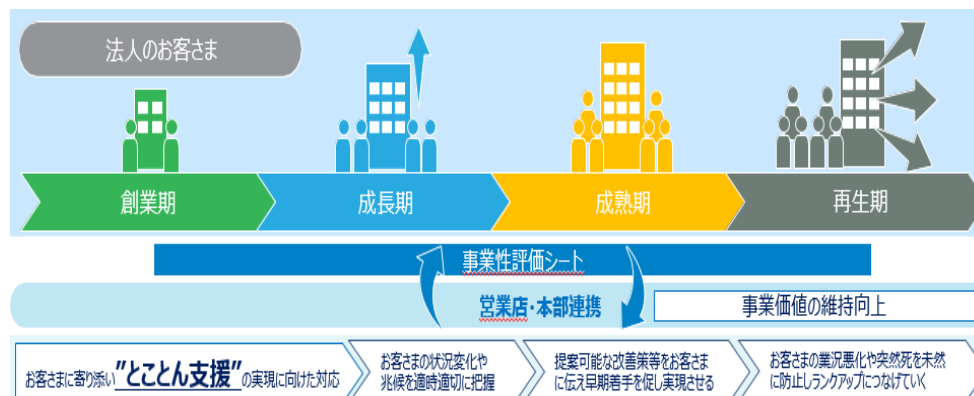
法人ソリューションにおける主な計数 (KPI)		2025年度		計 画		
		2024年度	目標	実績	2026年度	2027年度
事業性貸出金平残	(億円)	8,485	8,646	8,655	8,832	9,014
サステナブルファイナンス実行額	(億円)	1,050	354	1,199	359	364
リファイナンス実行額	(億円)	296	320	380	320	330
融資関連手数料	(億円)	10	11	15	11	11
ビジネスマッチング手数料	(億円)	4	3	4	3	3
事業承継・M&A受託件数	(件)	67	70	73	72	73

法人ソリューション収益

(単位：億円)



お客さまのライフステージに応じたコンサルティングサービスを展開



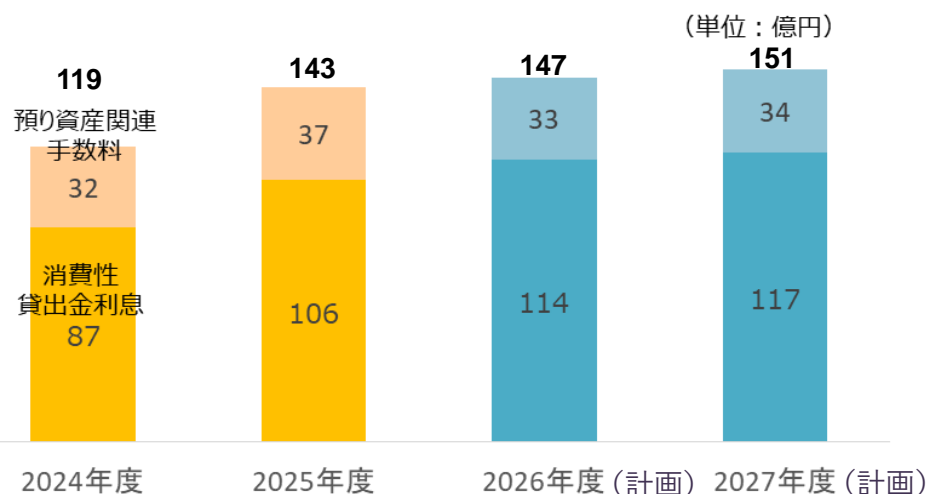
企業価値向上に向けて

➤ 収益力強化の取り組み

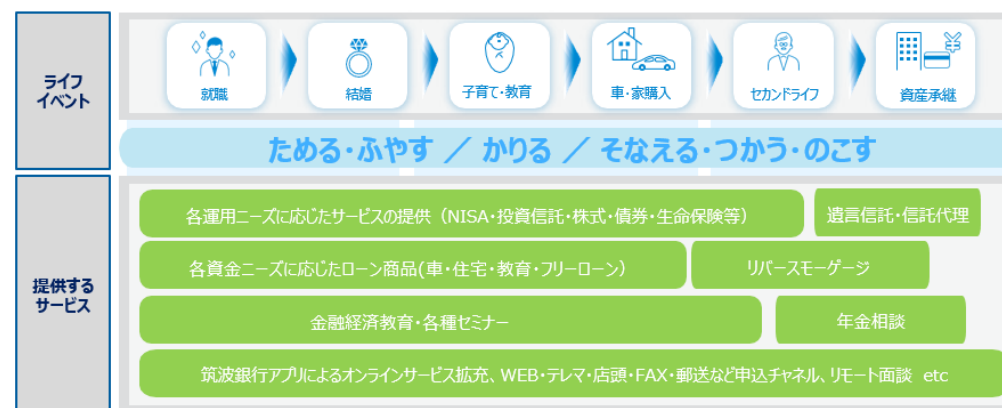
● 個人ソリューション … お客様のライフプランに合わせたご提案、資産形成をサポート

個人ソリューションにおける主な計数 (KPI)			2025年度		計 画	
		2024年度	目標	実績	2026年度	2027年度
消費性貸出金残高	(億円)	6,254	6,459	6,715	6,684	6,878
住宅ローン残高	(億円)	5,789	6,001	6,201	6,216	6,402
住宅ローン利回り	(%)	1.022	1.217	1.226	1.342	1.348
預り資産取引先数	(先数)	77,147	80,800	82,449	84,900	89,000
NISA口座数	(先数)	27,952	32,000	33,524	36,000	40,000
投資信託 積立振替額	(億円)	6.5	7.7	7.8	8.8	10.0

個人ソリューション収益



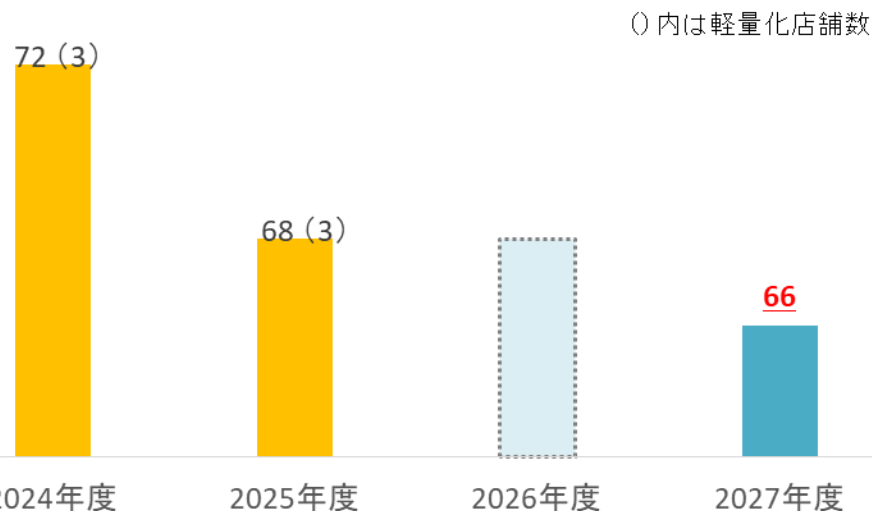
ライフプランに応じた人生伴走型のサービス・支援を提供



企業価値向上に向けて

➤ コストコントロール

● 店舗網の見直し ※数字は拠点数



店舗配置・機能の見直し、リソースの重点配分を実施

拠点数の見直し

- 地域特性に応じた店舗配置の見直しを行い、拠点の集約を図る
- 営業行員集約による営業活動の効率化

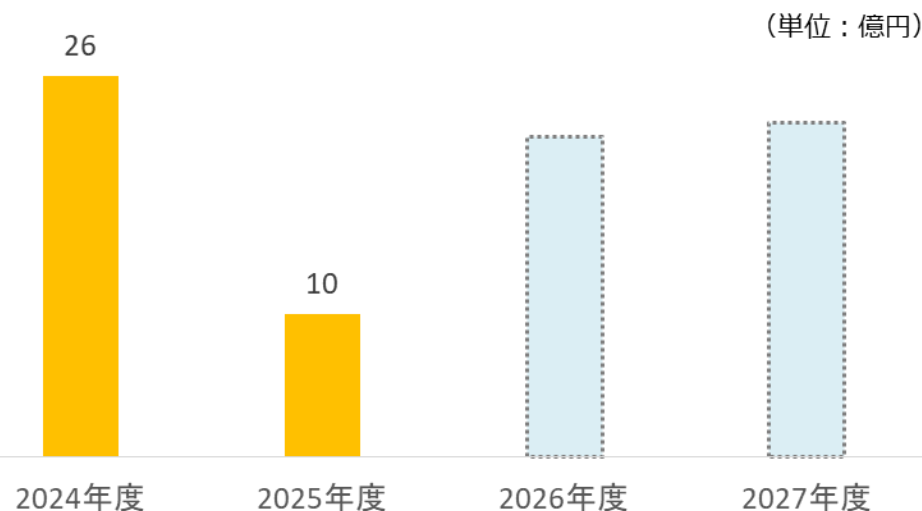
エリア営業体制の強化

- 同一エリア内の複数店舗のグルーピングを行い、重複した営業テリトリーを是正し、営業推進機能を強化

新たな店舗形態の検討

- 新たな店舗形態として2024年12月より軽量化店舗の導入開始
- 窓口の取扱い業務を「キャッシュレス業務」に限定することで少人数での店舗運営を可能に

● 与信コスト



本業支援によりお客さまの収益力改善に寄与

事業性における主な提案内容（2025年度）

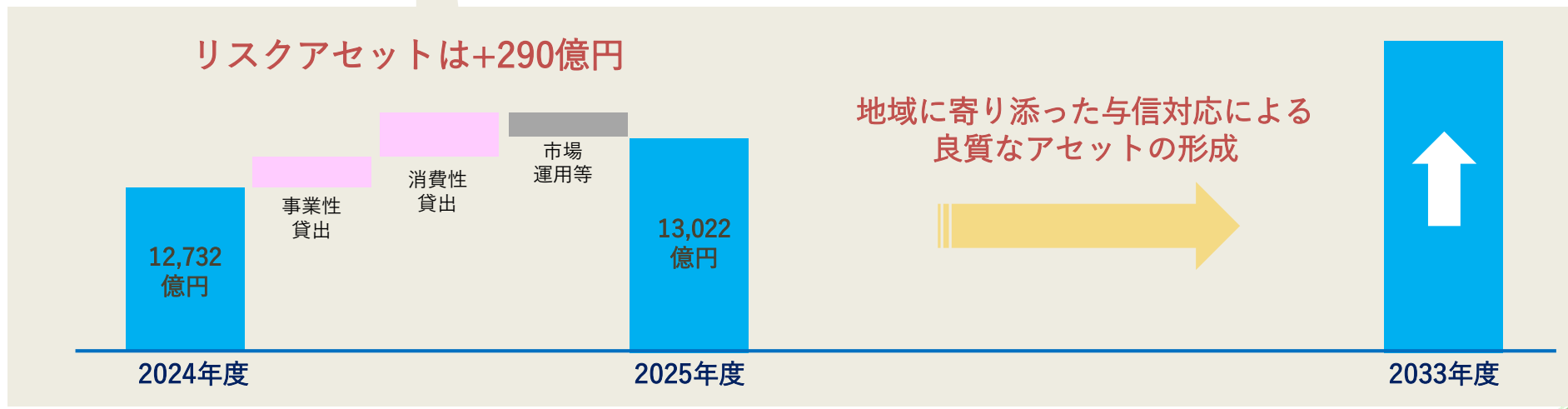
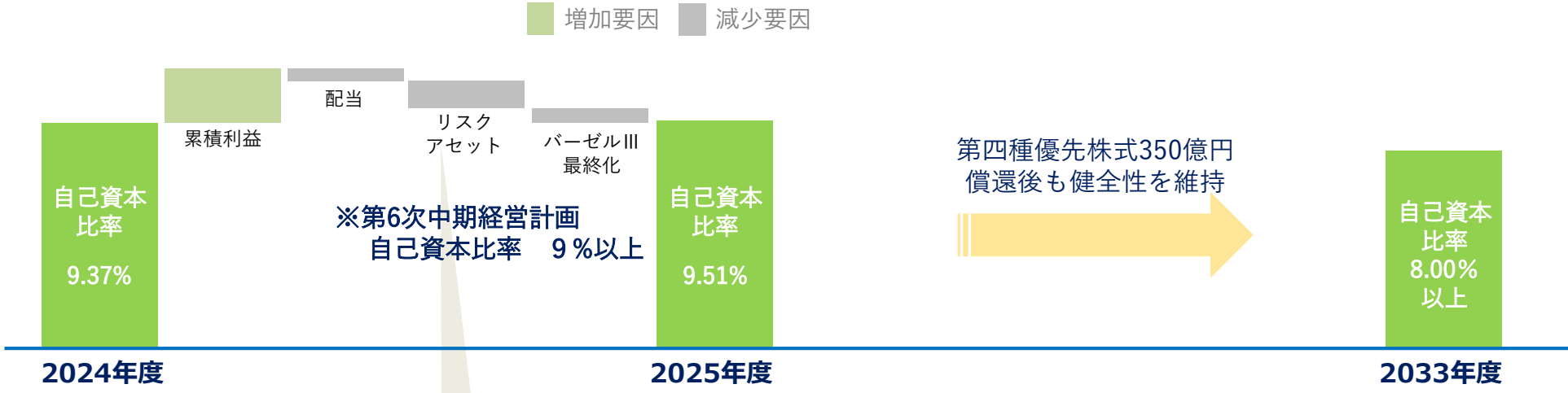
	目標	実績
資金繰り支援提案件数	19,000件	22,840件
本業支援提案件数	28,000件	43,410件
事業再生ランクアップ件数	280件	408件
ZEROダッシュ承認*	50件	118件

企業価値向上に向けて

➤ リスク・アセットコントロール

- 2025年から全行的にRORAを活用した取り組みを開始
- リスク・アセットに対するリターンの意識を向上

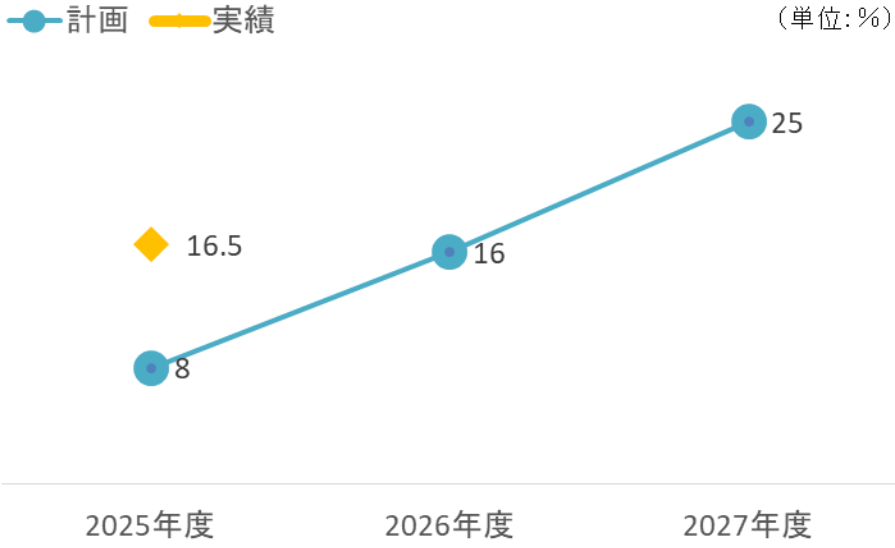
《自己資本比率イメージ》



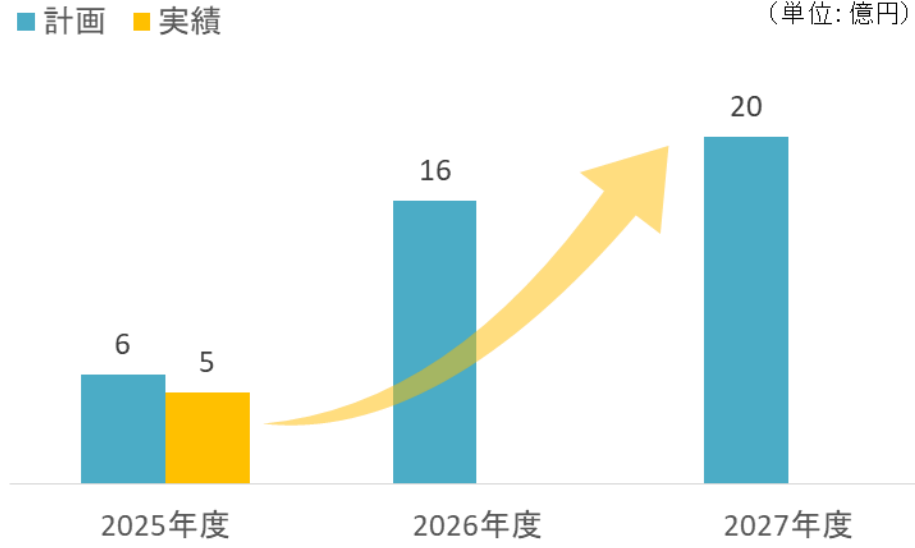
企業価値向上に向けて

資本の最適配分

● 人財投資の増加率 (2024年度比)



● DX分野への戦略的投資 (累計投資額)



人的ポートフォリオの最適化に向けて、人財への投資を加速

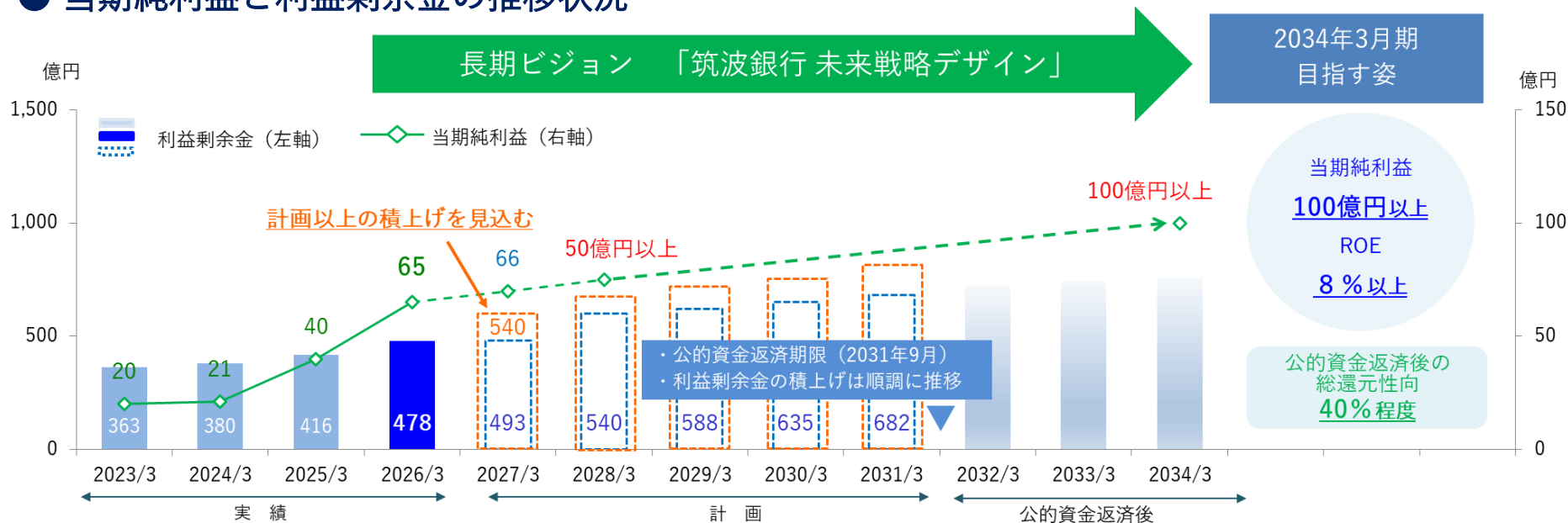


第6次中計において

「BPRによる200,000時間以上の創出」

公的資金の返済に向けて

● 当期純利益と利益剰余金の推移状況



<参考> 経営強化計画履行状況報告書 (2025年9月期提出計画に実績値を追記)

単位: 億円

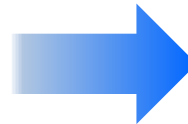
	2025/3	2025/9		2026/3	
	実績	計画	実績	計画	実績
当期純利益	40	21	37	40	65
利益剰余金	416	434	449	452	478
計画対比			15		26
	2027/3	2028/3	2029/3	2030/3	2031/3
	計画	計画	計画	計画	計画
当期純利益	45 (66) *	52	52	52	52
利益剰余金	493 (540) *	540	588	635	682

* () は2027年3月期業績予想を踏まえた見込値

VII サステナビリティの取り組み

SDGs推進プロジェクト『あゆみ』 ～地域のために 未来のために～

社会的課題の解決



持続的成長

地域の抱える社会的課題の解決を通じ、地域とともに成長するビジネスモデルの構築

- ◆地域金融機関として事業性評価に基づく共通価値の創造
- ◆地方創生等の取り組みの推進

マテリアリティ		テーマ		主な取組み
① 地域経済の持続的な発展に向けて		1-1 サステナブルな地域経済を目指して 1-2 地域イノベーションの創造	経済	<ul style="list-style-type: none"> ●サステナブルファイナンスの推進 ●ベンチャー企業の育成支援、創業支援の取組み強化
② 持続可能な地球環境の実現に向けて		2-1地球環境に配慮した行動	環境	<ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量削減
③ 地域に暮らす人々の豊かな社会の実現に向けて		3-1 地域創生の更なる推進 3-2 CSRの取組み 3-3 取引先の職場環境の向上	社会	<ul style="list-style-type: none"> ●観光関連事業、地域プランディング事業への協力 ●エコノミクス甲子園茨城大会の開催、SDGs診断・宣言サービスの推進 ●福利厚生パッケージ「ハッピーエールサポート」の推進
④ 責任ある事業の推進に向けて		4-1 TCFD提言等のコンソーシアムへの参画 4-2 持続的成長に向けたガバナンス体制	ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> ●TCFD提言賛同後の開示項目の進捗管理 ●SDGs推進委員会による各種取組みの進捗確認、経営への報告体制の確立

◆ CO2排出量削減

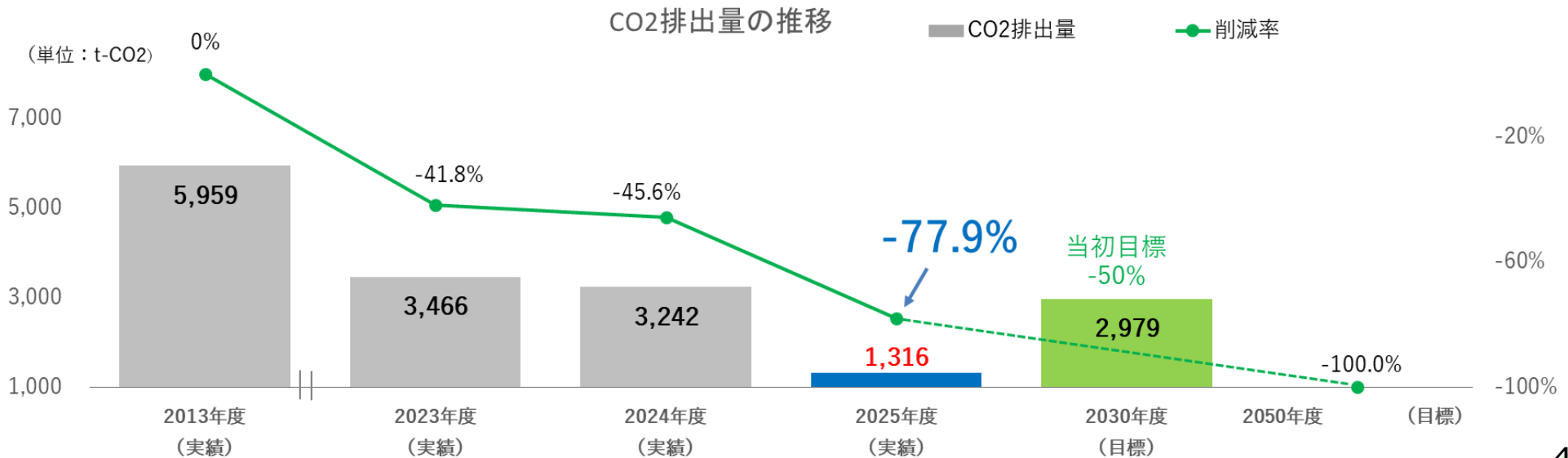
2013年度比較の削減率

目標 ▲50%
2030年度削減率



実績 ▲77.9%
2025年度削減率

- ◆ 実質再生可能エネルギー電力の一部導入（2025年4月）
- ◆ 2025年度CO2削減実績▲77.9%、「2030年度削減目標▲50%」を前倒しで達成
- ◆ 2050年度までにCO2排出量ネットゼロを目指す

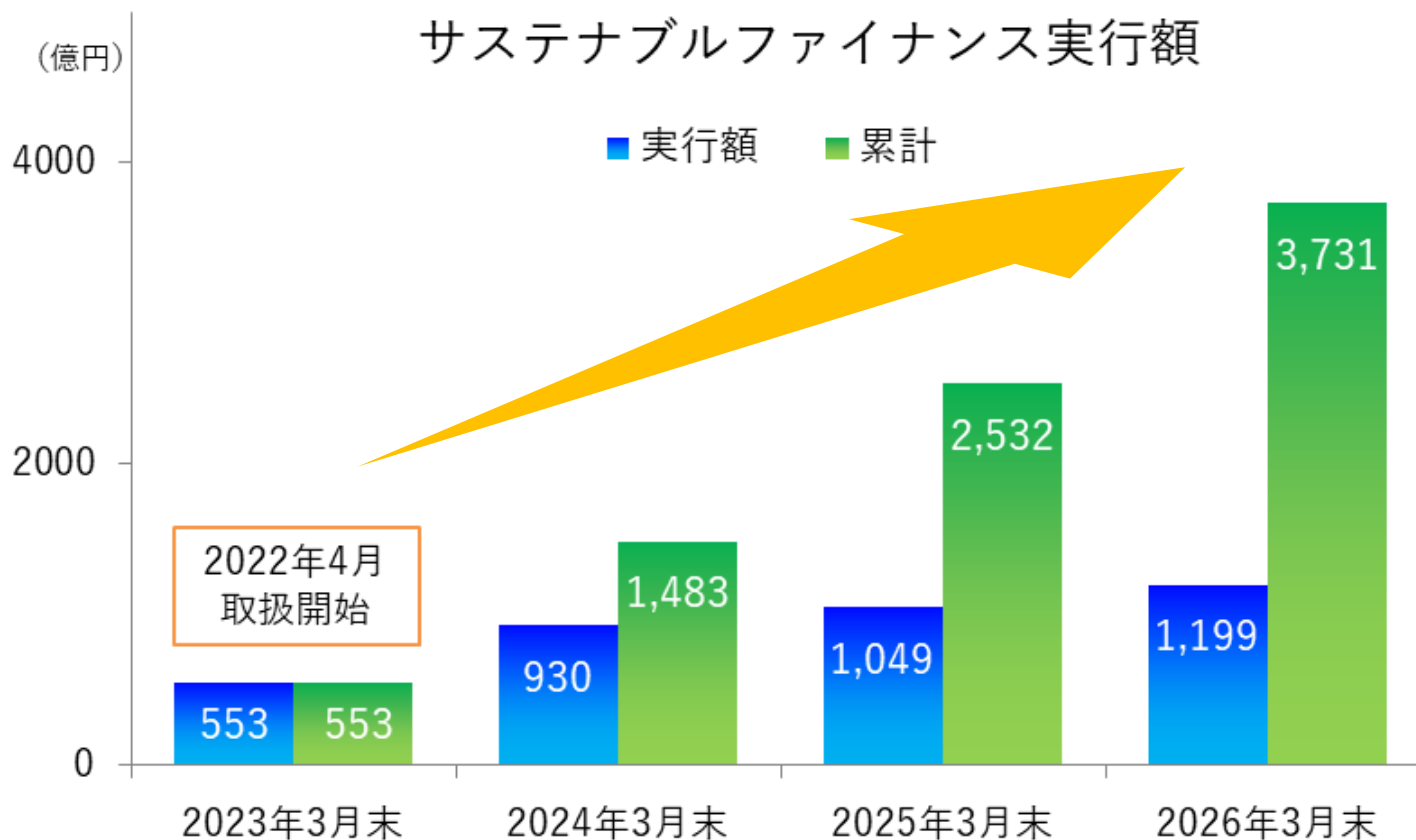


◆ サステナブルファイナンス

実行目標 3,000億円
(2022年4月～2031年3月)



累計実績 3,731億円
(2022年4月～2026年3月)



◆ ネイチャーポジティブ宣言

◆ 「筑波銀行 ネイチャーポジティブ宣言」の表明（2025年10月）

「ネイチャーポジティブ宣言」に基づく活動

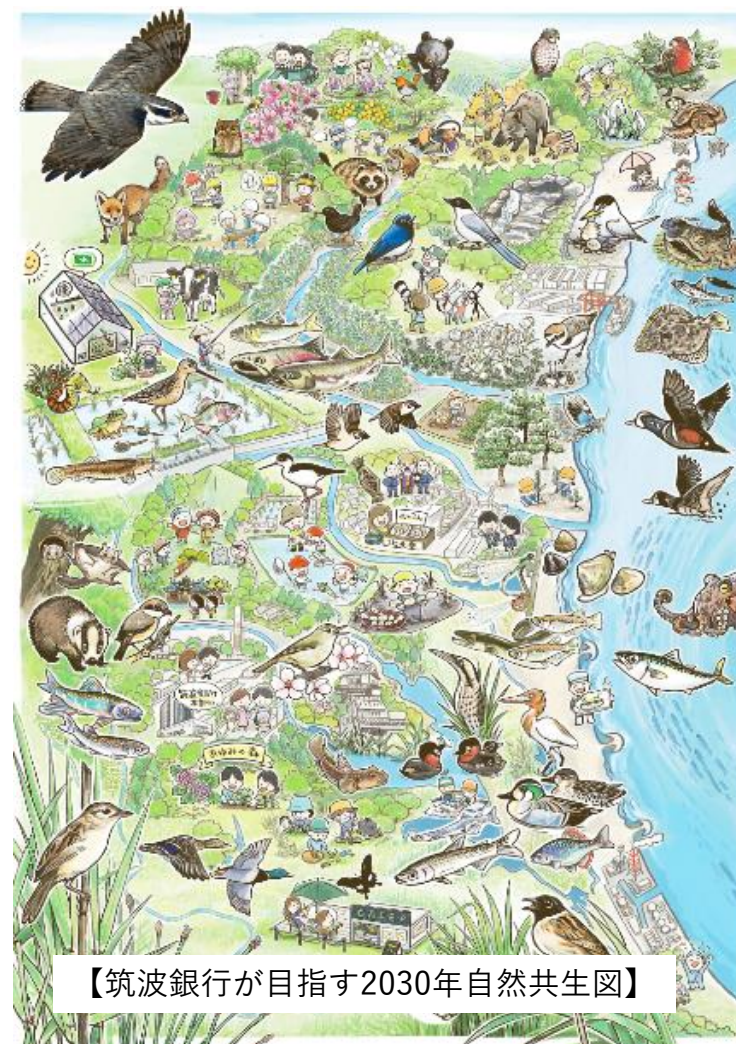
～特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の駆除活動～



【当行職員による駆除活動】



南米原産のヒユ科の多年草で「特定外来生物」に指定され、環境や農業に深刻な被害を及ぼしている「ナガエツルノゲイトウ」の正しい駆除方法を学び、繁殖・拡大を防止する活動に当行職員が参加しました。当日は、かすみがうら市田伏地区の駆除活動に様々な団体や個人を含む36名が参加し、土のう袋139個分の駆除を行いました。



【筑波銀行が目指す2030年自然共生図】

VIII. 最後に

● 2026年3月期決算にて過去最高益達成



コア業務純益99億円
当期純利益 65億円

● 収益力と企業価値の向上を実現



ROE・PBRの改善

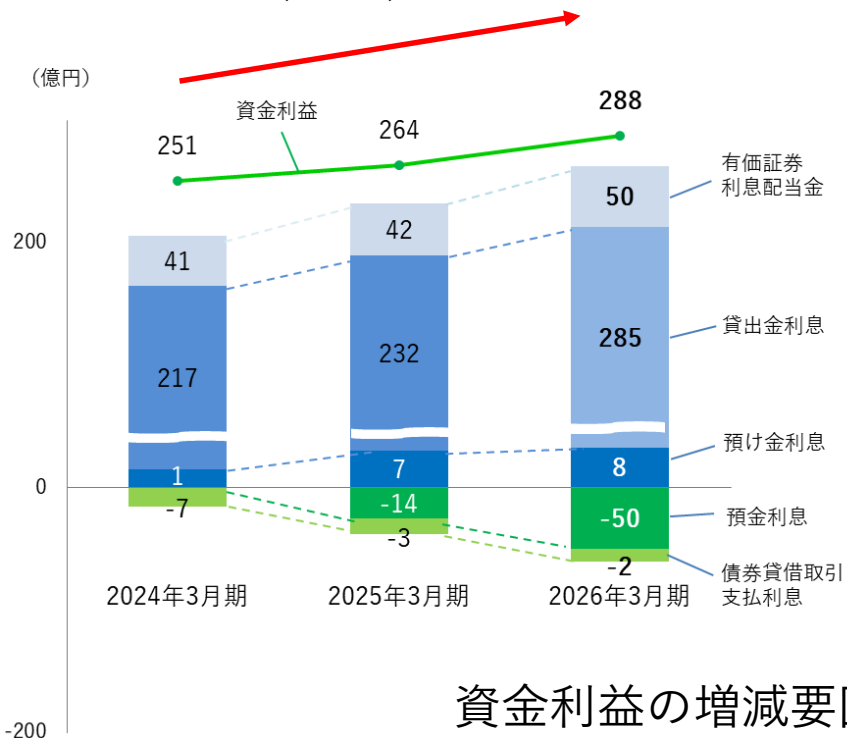
● 未来戦略デザイン実現の確実性UP



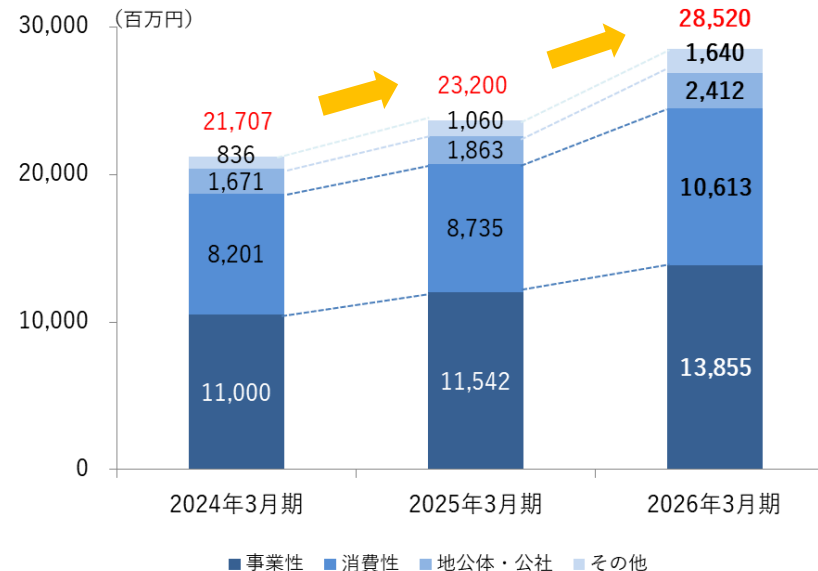
公的資金返済の確実性

Appendix (決算説明補足資料)

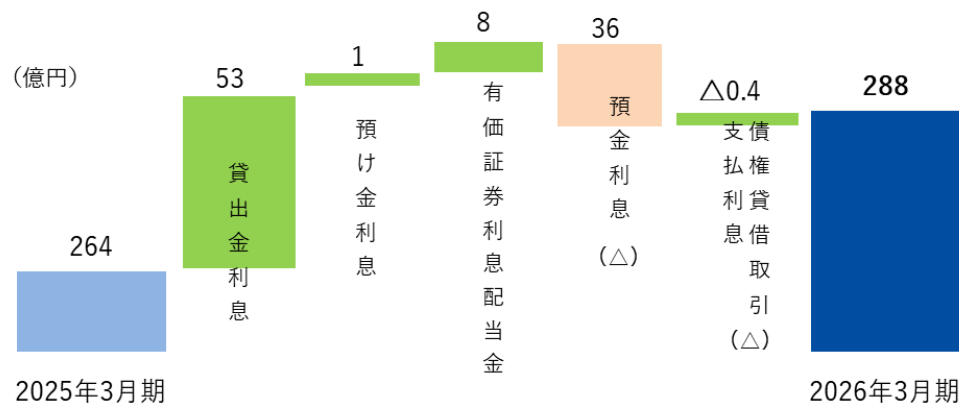
資金利益 (単体)



貸出金利息 (単体)



資金利益の増減要因 (単体)



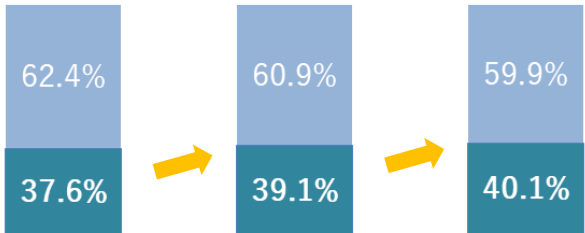
2026年3月期 決算概要 (バランスシート構成)

バランスシート構成 (2026年3月末)

貸出金ポートフォリオ

- 変動金利の割合が着実に上昇
- 金利上昇時の収益感応度が上昇
- 中小企業・住宅ローンが着実増

■ 変動金利 ■ 固定金利



2024年3月末 2025年3月末 2026年3月末

・前期末比貸出金増減率の推移

	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末
貸出金合計	+4.4%	+3.9%	+4.3%
うち中小企業*	+0.9%	+2.0%	+2.5%
うち住宅ローン	+9.1%	+7.2%	+7.1%

*中小企業貸出とは、中小企業等貸出金から個人事業者以外の個人を除いた先に対する貸出で、土地開発公社向け貸出、SPC向け貸出等を除外した貸出。

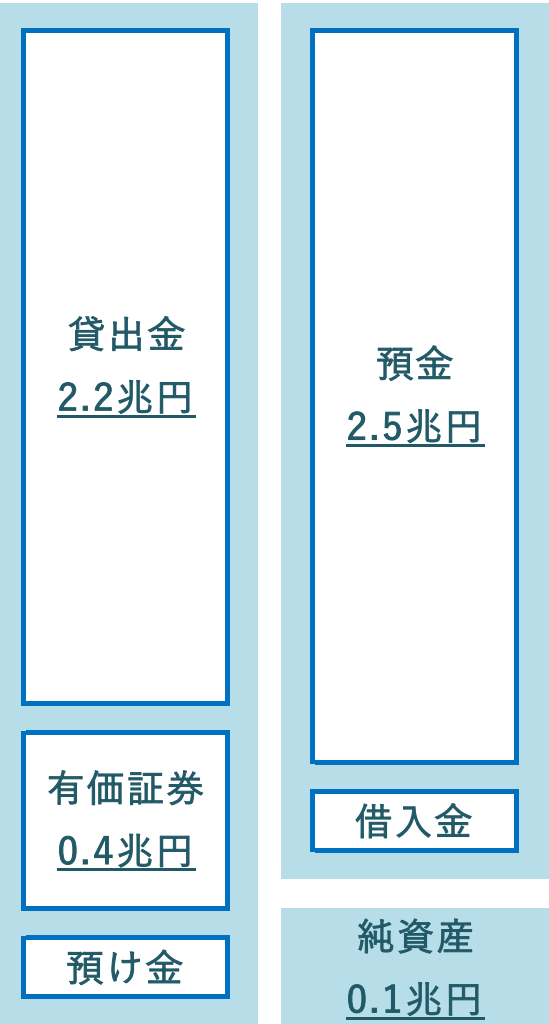
有価証券

- ポートフォリオの改善に注力

(2026年3月末時点B/S構成)

総資産2.8兆円

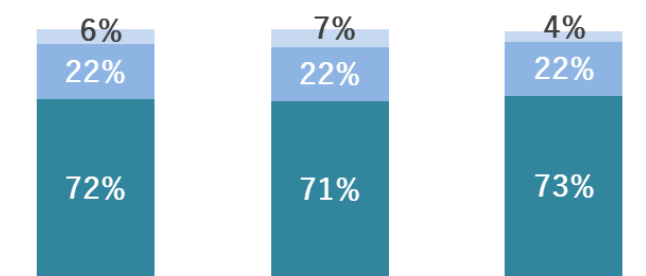
負債2.7兆円



預金ポートフォリオ

- 粘着性の高い預金比率を維持
- 26/3末の預金減少の要因は大口の公金預金の減少

■ 個人預金 ■ 法人預金 ■ 公金預金



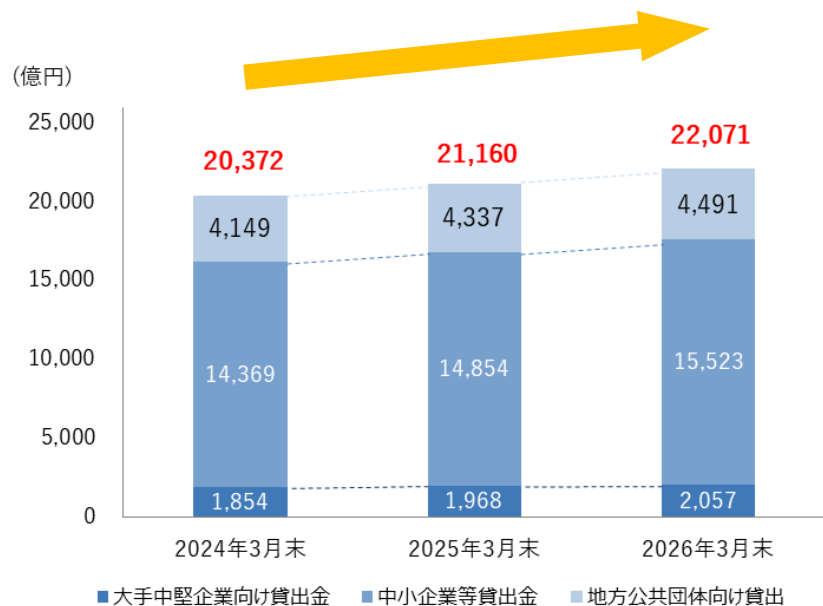
2024年3月末 2025年3月末 2026年3月末

・前期末比預金増減率の推移

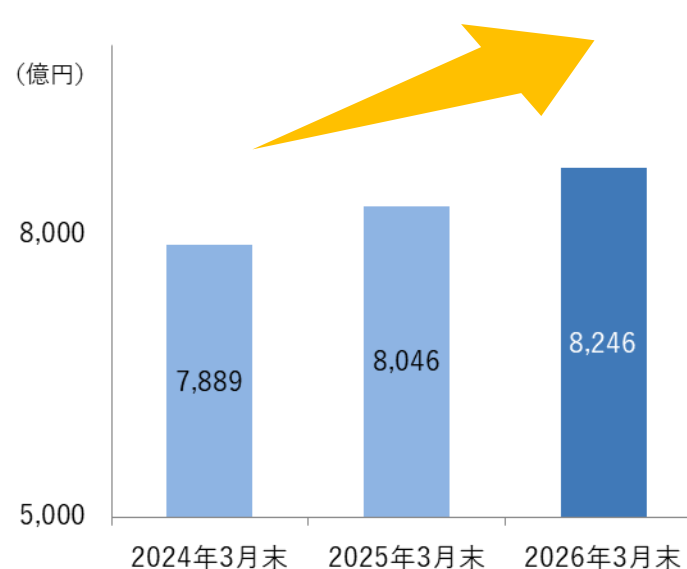
	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末
預金合計	+2.6%	+2.2%	-3.0%
うち個人	+0.6%	+0.1%	+0.3%
うち法人	+3.2%	+2.2%	+0.4%

2026年3月期 決算概要 (貸出金残高/利回り・中小企業貸出・消費者ローン残高)

貸出金残高



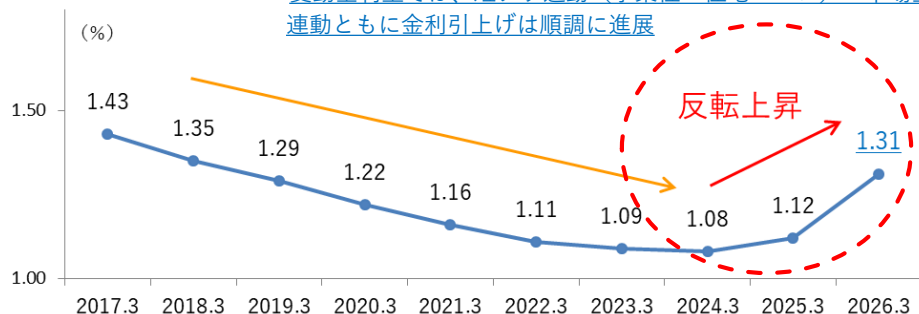
中小企業貸出



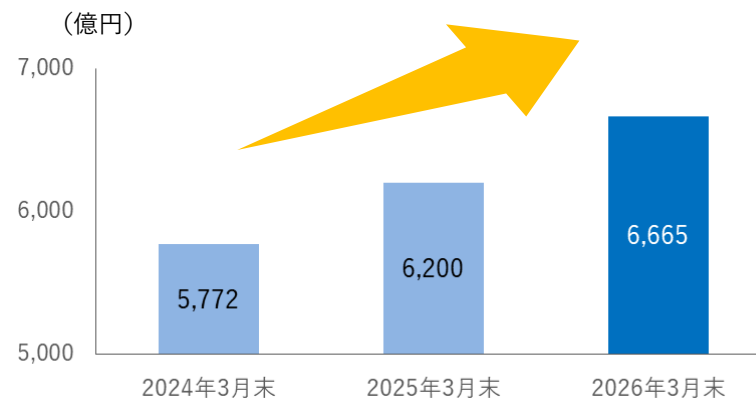
※中小企業貸出とは、中小企業等貸出金から個人事業者以外の個人を除いた先に対する貸出で、かつ、土地開発公社向け貸出、SPC向け貸出等を除外した貸出。

貸出金利回りの推移

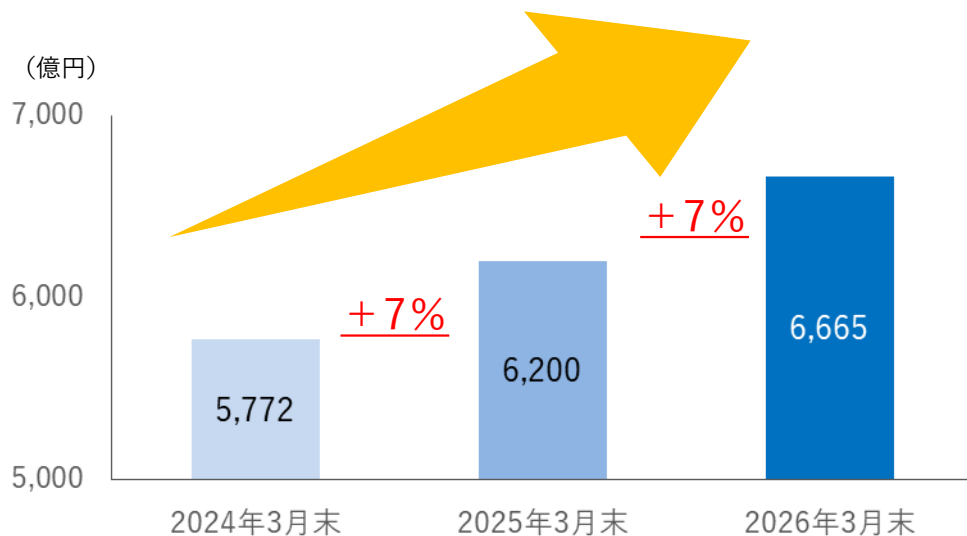
- これまで3回短プラ引上げを実施 (2024.9/2025.3/2026.2)
- 変動金利型では、短プラ連動 (事業性・住宅ローン) ・市場金利連動ともに金利引上げは順調に進展



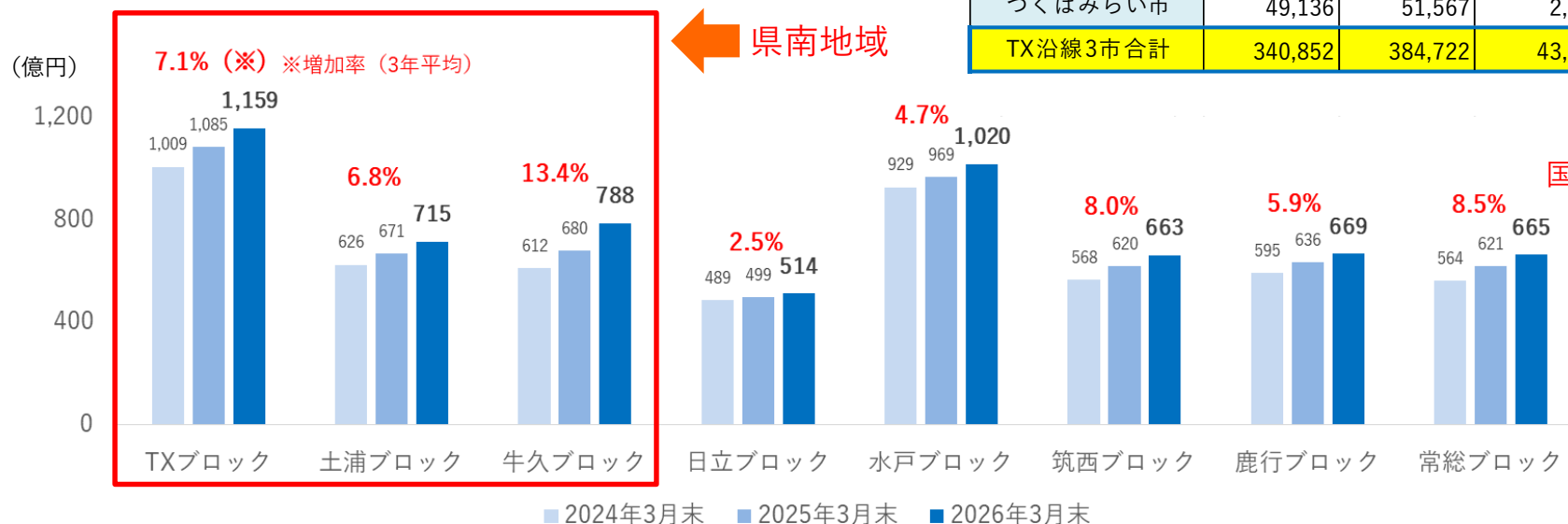
消費者ローン残高



住宅ローン残高



住宅ローン残高の推移 (地区別)



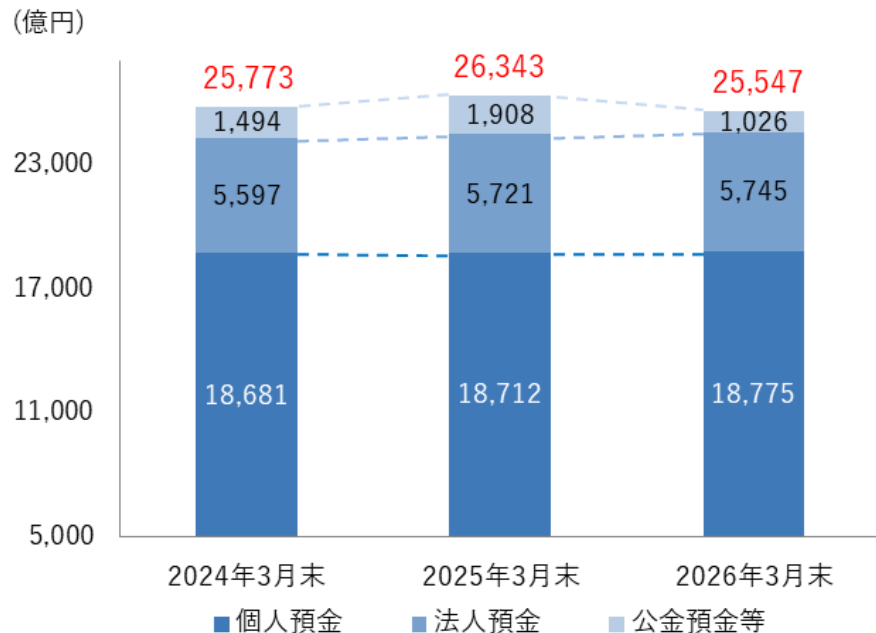
【参考】茨城県の人口動態

茨城県 人口動態	2015年10月 (平成27年)	2025年10月 (令和7年)	増減数 (人)	増減率 (%)	県人口に 占める割合
茨城県 (全体)	2,916,976	2,791,231	▲ 125,745	▲ 4.31	100.00
県北地域	372,038	316,999	▲ 55,039	▲ 14.79	11.36
県央地域	715,718	684,494	▲ 31,224	▲ 4.36	24.52
鹿行地域	274,568	255,941	▲ 18,627	▲ 6.78	9.17
県南地域	1,000,720	1,015,596	14,876	1.49	36.39
県西地域	553,932	518,201	▲ 35,731	▲ 6.45	18.57

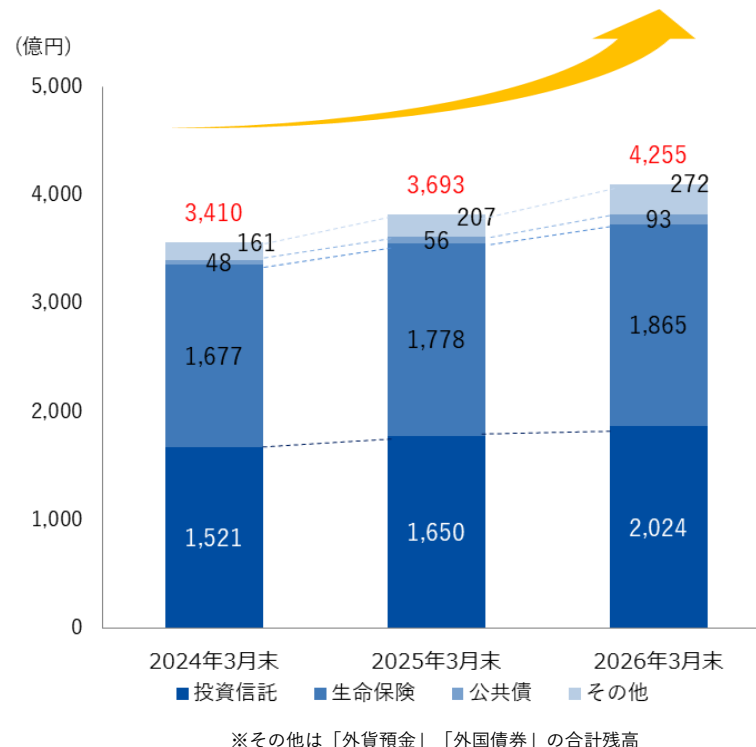
つくばエクスプレス 沿線3市の人口動態	2015年10月 (平成27年)	2025年10月 (令和7年)	増減数 (人)	増減率 (%)
つくば市	226,963	263,044	36,081	15.90
守谷市	64,753	70,111	5,358	8.27
つくばみらい市	49,136	51,567	2,431	4.95
TX沿線3市合計	340,852	384,722	43,870	12.87

国内屈指の人口増加率！

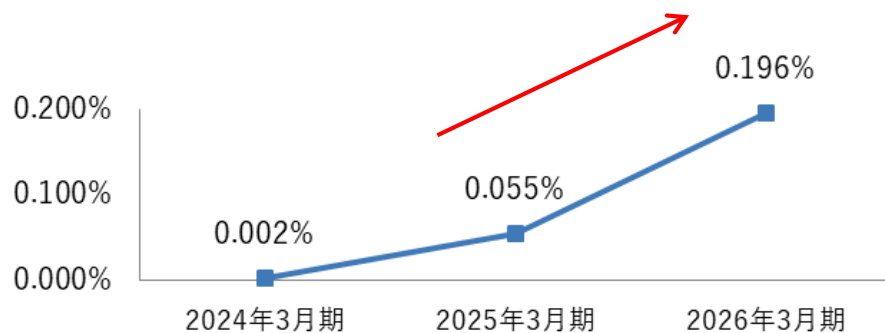
預金残高



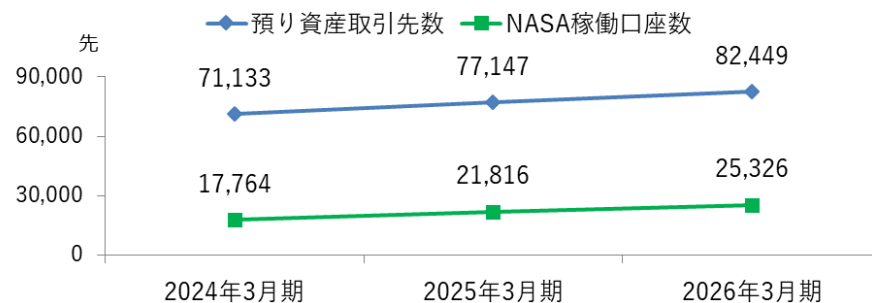
預り資産残高



預金利回り

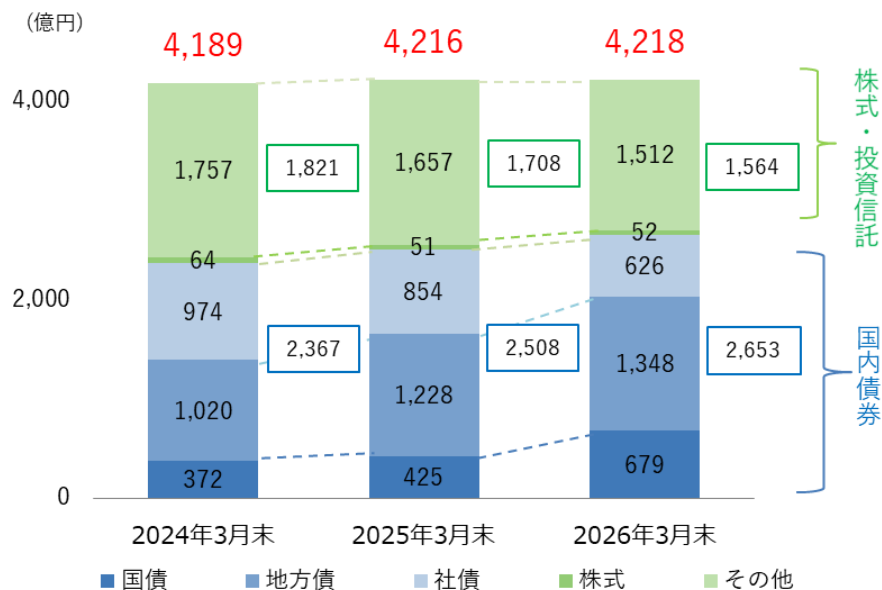


預り資産取引先数・NISA稼働口座数 (累計)

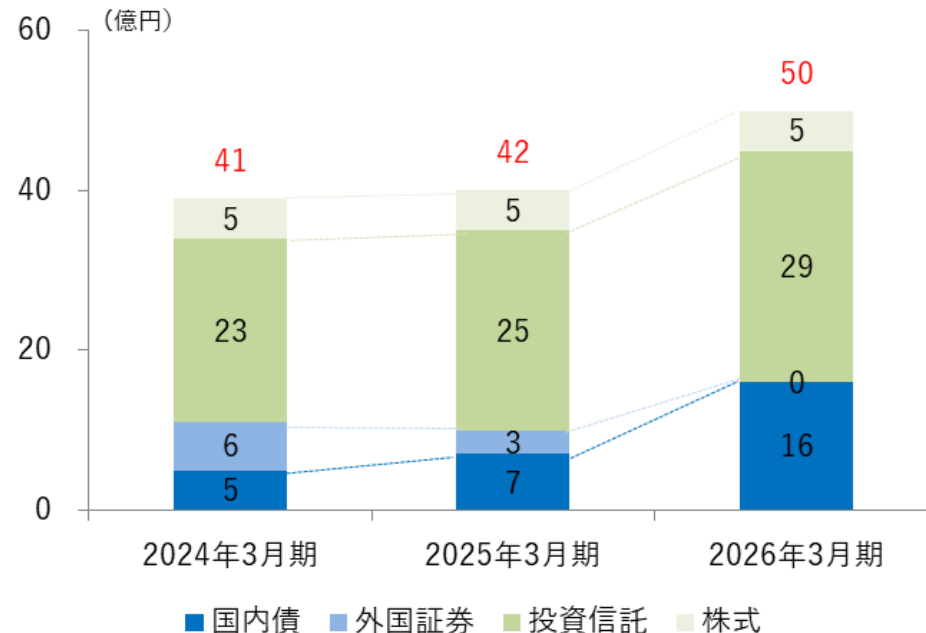


2026年3月期 決算概要 (有価証券残高/利回り・有価証券利息配当金)

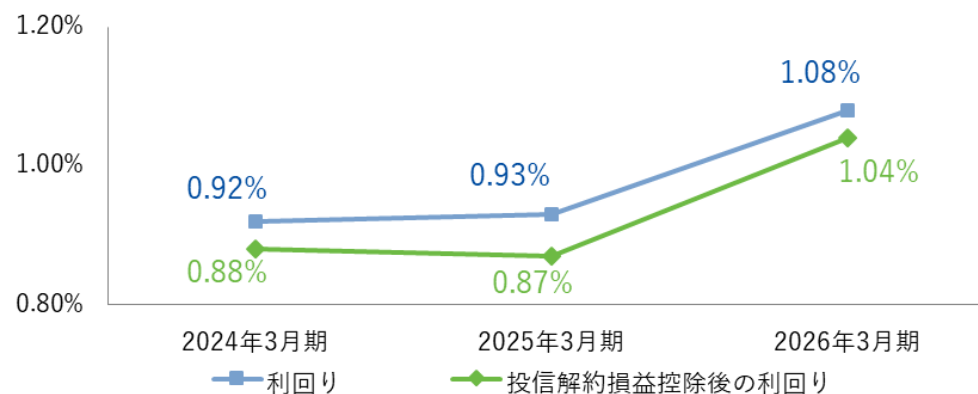
有価証券残高



有価証券利息配当金

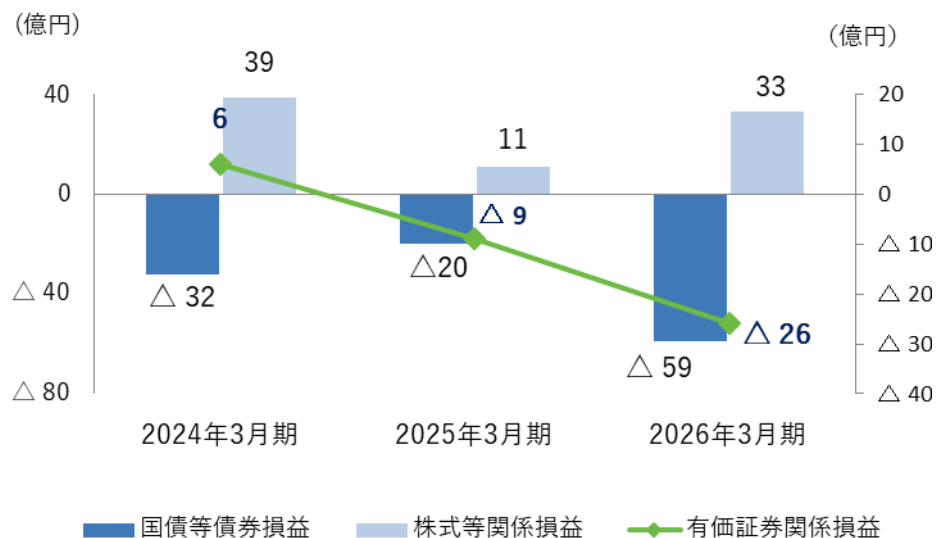


有価証券利回り

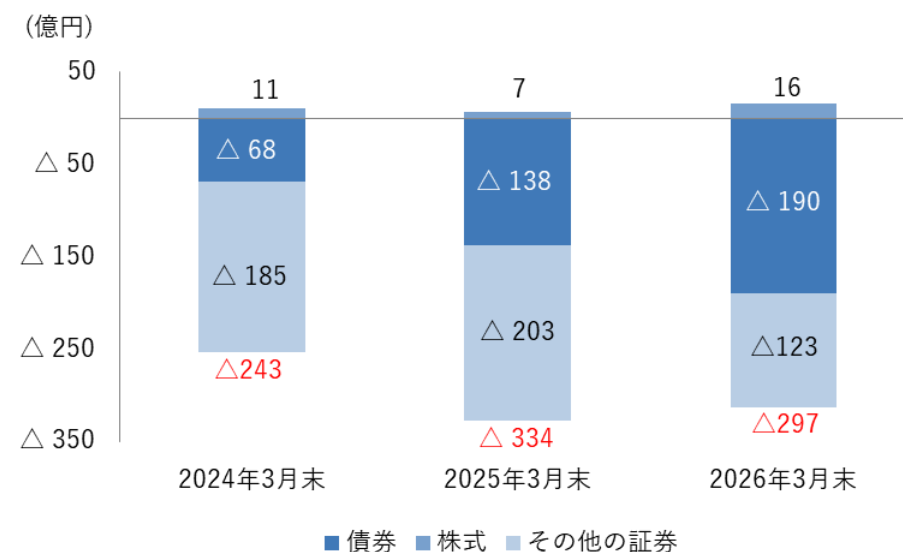


2026年3月期 決算概要 (有価証券関係損益・その他有価証券の評価損益)

有価証券関係損益



その他有価証券の評価損益



【参考】株価、長期金利の推移

(単位：円)

	2024年3月末	2025年3月末	2026年3月末
日経平均株価	40,369	35,617	51,063
長期金利	0.725%	1.485%	2.355%
米国10年債	4.200%	4.249%	4.348%
東証REIT指数	1,794	1,691	1,848

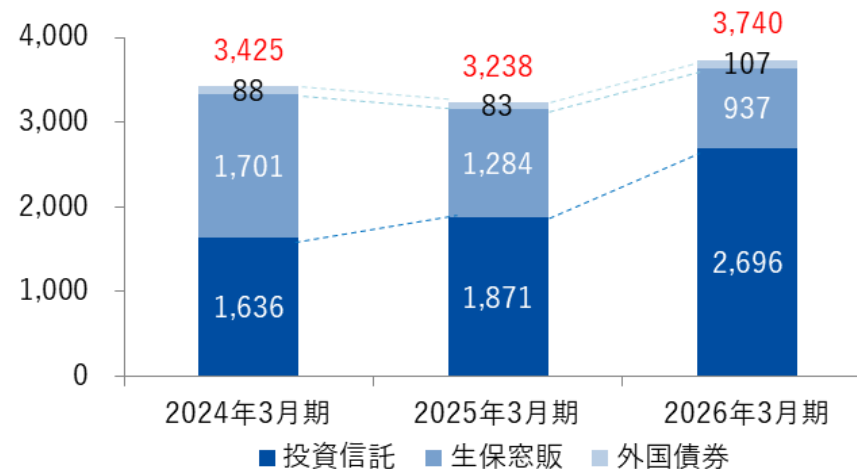
役務取引等利益 (単体)

■ 役務取引等利益の推移

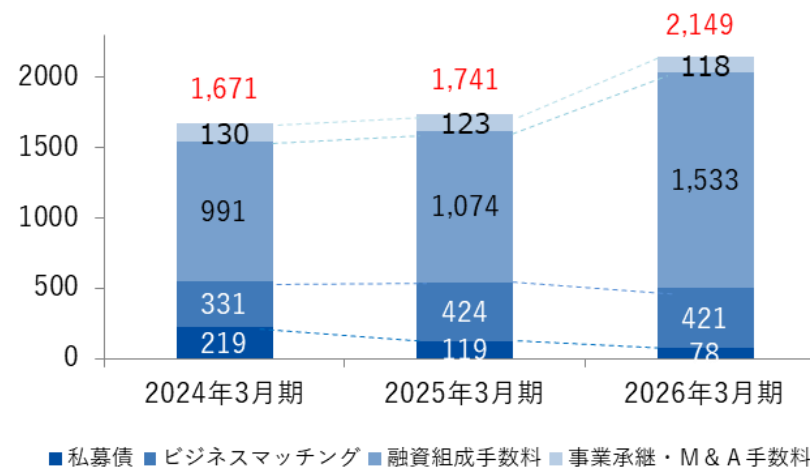
(単位：百万円)

	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期	前期比
役務取引等利益	4,507	4,092	4,579	486
役務取引等収益	9,039	9,102	10,136	1,033
うち預り資産手数料	3,425	3,238	3,740	502
うち法人関連手数料	1,671	1,741	2,149	408
役務取引等費用	4,532	5,009	5,557	547
うち支払ローン関係手数料	3,814	4,262	4,784	522

■ 預り資産手数料の獲得額推移 (百万円)

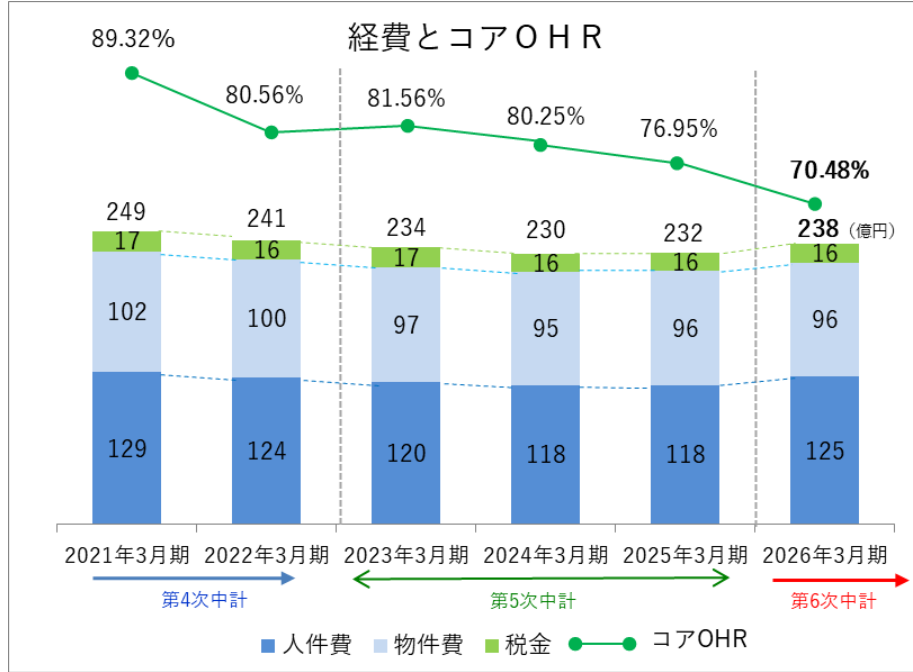


■ 法人関連手数料の獲得額推移 (百万円)

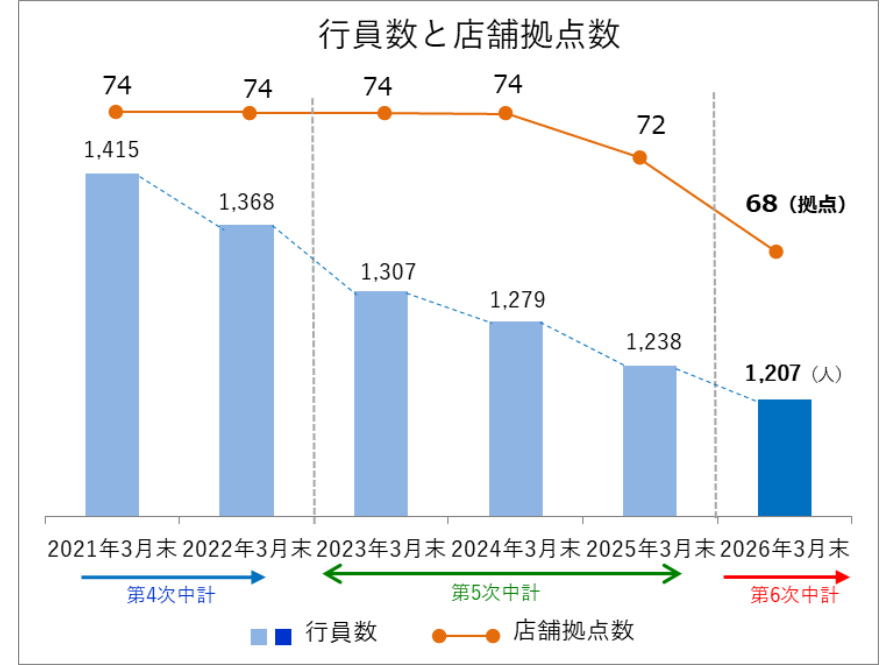


2026年3月期 決算概要 (経費の状況・行員数と店舗拠点数)

経費の状況 (単体)

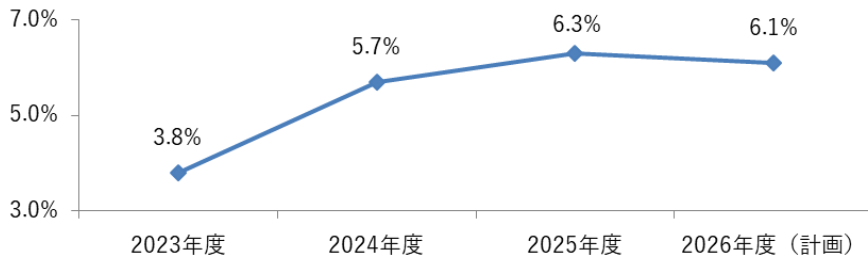


行員数と店舗拠点数



賃上げの状況

※定期昇給および賞与増加分を含めた平均の引上げ率



店舗統合・キャッシュレス店舗導入事例

直近の店舗統合 (BinB) 事例

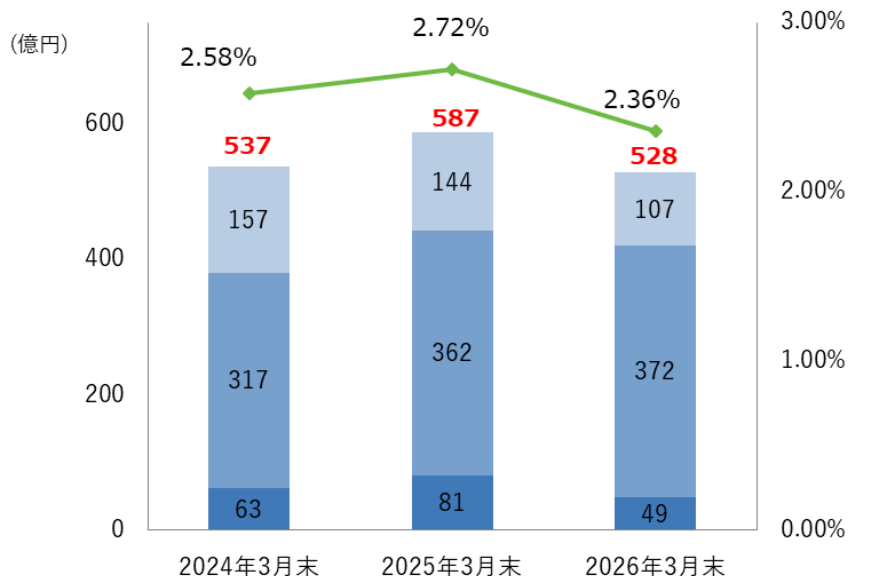
実施日	統合店	被統合店
2025.3.17	谷田部支店	みどりの支店
2025.3.24	大洗支店	那珂湊支店
2025.5.12	宇都宮支店	鹿沼支店
2025.5.19	潮来支店	麻生支援

キャッシュレス店舗導入事例

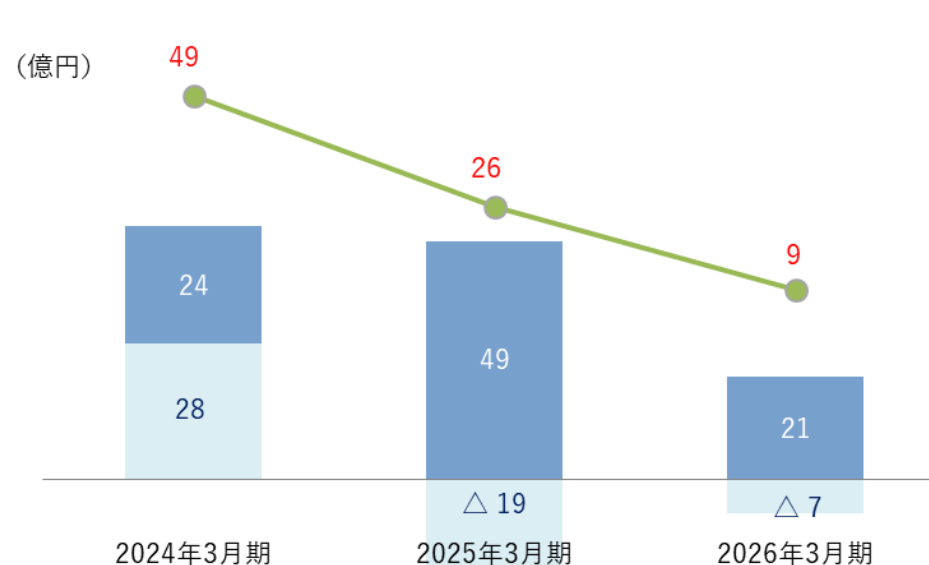
実施日	キャッシュレス店舗	フルバンキング店舗※
2024.12.23	高萩支店	磯原支店
2025.2.12	石岡東支店	石岡支店
2025.2.17	土浦北支店	本店営業部

※フルバンキング店舗…キャッシュレス店舗と連携して個人・法人すべてのお客さまに対応する店舗

金融再生法開示債権（単体）



与信関係費用（単体）



破産更生債権およびこれらに準ずる債権 危険債権 要管理債権 開示債権比率

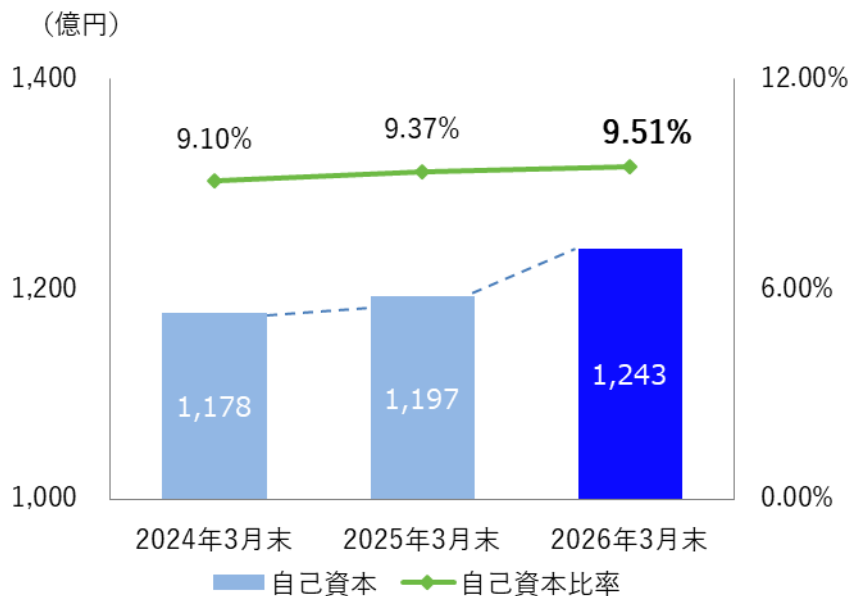
一般貸倒引当金繰入額 不良債権処理額 与信関係費用

債務者支援の取組実績

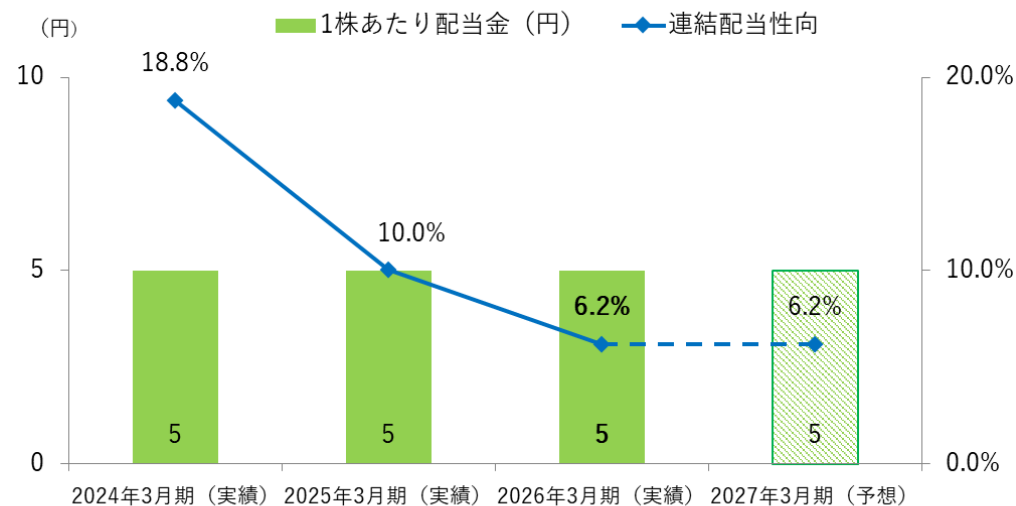
（単位：件）

	2025年度 （計画）	2025年度 （実績）	計画比
事業再生支援先に対する事業再生（ランクアップ件数）	280	408	+128
債務者支援に関する協議	500	960	+460
経営改善計画書の策定支援	100	130	+30
DDS/DES・債権放棄・ファンド活用などの経営再建	4	10	+6

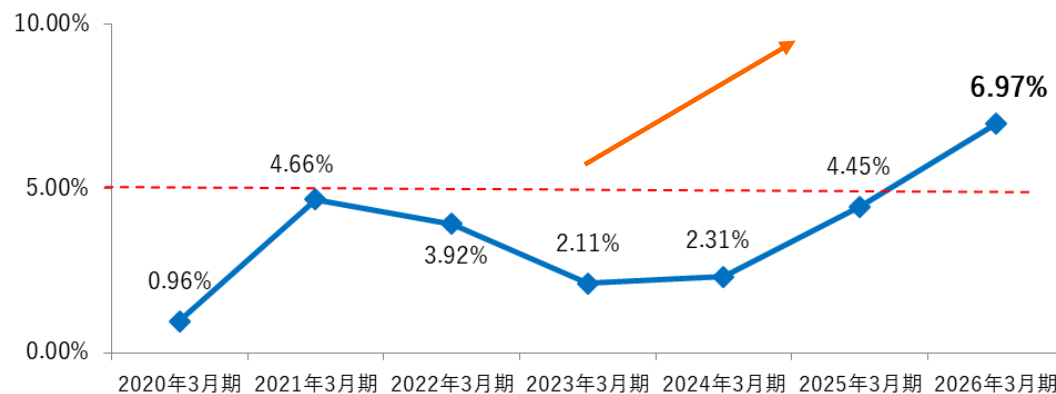
自己資本比率 (単体)



配当の状況及び連結配当性向



ROE (純利益ベース)



本説明資料に関するご照会先

本説明資料やIR全般に関するご意見、ご感想、お問い合わせは、下記までお願いいたします。

株式会社筑波銀行 総合企画部IR・広報室
電話：029（859）8111（代表）
E-mail：koho@tsukubabank.co.jp

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであります。

将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意下さい。